

(第九書式)

徵集猶豫顯處分案

年 月 日

事務員 合

議 ①

同 主

任 ①

左記ノ者令第二十三條ニヨリ徵集猶豫ノ儀出願ニ付審査候處該案相當ノ者ト被  
認候間猶豫證書御下附可相成哉

何 某

何 某

計 何 名

徵兵官 司令官 (判決)  
郡市長 (同)

注意

一、本書式ハ令第二十三條出願者ノ爲一例ヲ示シタルモノナレハ他處分性質之ニ類似ノ者ハ之ニ準ス

二、用紙ハ半紙野紙トス

(第十書式)

逃亡者處分案

年 月 日	事務員 合	議 ①
	同 主	任 ①

左記ノ者別紙ノ通逃亡ノ旨届出候ニ就テハ延期御處分可相成哉

何郡市町村

前年假決逃亡 何某外何名

適齡逃亡	何某外何名
計	何名
徵兵官	司令官 (判決)
郡市長 (同)	

注意

- 一、前年假決逃亡者ト適齡逃亡ハ各別ニ處分案ヲ調製スヘシ
- 二、本書式ハ逃亡者ノ爲一例ヲ示シタルモノナレハ他處分ノ性質之ニ類似ノ者ハ皆之ニ準ス
- 三、用紙ハ半紙野紙トス

(第十一書式)

明治何年何縣區何郡市徵募區籤丁人員表

兵種	步兵		騎兵		砲兵		工兵隊兵		合計	抽籤者	合計
	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種			
體格等位									合格		
總員									令第二十八條第五項		
									令第二十三條		
									令第二十七條		
									令第二十二條		
									細則第二十一條		
									計		
									抽籤者		
									合計		

		機關兵			水兵			合計	計			靴工卒		
第一乙種	甲種	第二乙種	第一乙種	甲種	第二乙種	第一乙種	甲種		第二乙種	第一乙種	甲種	第二乙種	第一乙種	甲種

		縫工卒		輜重輸卒		輜重兵		電信隊兵		鐵道隊兵	
第一乙種	甲種	第二乙種	甲種	第二乙種	甲種	第二乙種	甲種	第二乙種	甲種	第二乙種	

考 備	總 計	合 計	計		
			第二乙種	第一乙種	甲種
一、入寄留者ハ朱書ヲ以テ別記スヘシ 二、用紙ハ美濃紙トス					

(第十二書式)

明治何年徴兵事務報告書

何聯隊區

何聯隊區徵兵事務報告書

一、一般之景況

一、何々……………

二、何々……………

二、壯丁應命並ニ不參者ノ狀況

一、何々……………

ニシテ前年ト本年トノ比較左ノ如シ

何年	何年	年次	區分	應命者	不參者	計

(用紙ハ半紙十一行對紙トス)

三、現役志願者ノ狀況  
 一、何々……………ニシテ採用シタル人員前年ト本年トノ比較左ノ如シ

何年	何年	年次	區分	細則第二十一條	令第十二條	計

四、徵兵忌避者ノ狀況

一、何々……………

五、徵集延期出願者ノ狀況

一、何々……………ニシテ其ノ人員前年ト本年トノ比較左ノ如シ

何年	何年	年次	區分	家族自活シ能ハサル者	三ヶ年ヲ過クルモ尙止マサル者	計

六、徴集猶豫出願者ノ狀況

一、何々……………ニシテ前年ト本年トノ出願者人員比較左ノ如シ

何年	何年	年次	區分	
			出願者	増減

外國在留者ハ前年ト本年トノ人員ヲ備考ニ掲クヘシ

七、壯丁學力試験ノ景況

一、何々……………ニシテ前年ト本年ニ於ケル壯丁學力程度比較左ノ如シ

何年	何年	年次	區分										計	
			中學卒業ノ者	同上同等ノ學力ト認ムル者	高等小學卒業ノ者	同上同等ノ學力ト認ムル者	尋常小學卒業ノ者	同上同等ノ學力ト認ムル者	簿讀書算術ヲ爲シ得ル者	讀書算術ヲ知ラサル者	計			

備考 大學卒業ノ者若クハ之ト同等ノ學力ト認ムル者ハ相當區畫ヲ設ケ記入スヘシ

八、壯丁體格良否ノ景況

一、何々……………ニシテ體格種別前年ト本年トノ比較左ノ如シ

何年	何年	年次	區分					計
			甲種	乙種	丙種	丁種	戊種	

九、徴兵官ノ裁決ニ報セス訴願セシ者

一、何々……………

十、地方官執務ノ景況

一、何々……………

十一、將來ニ關スル意見

- 一、何々……………
- 二、何々……………

十二、雜 件

一、前諸項ノ外特ニ必要ト認ムル事項ヲ記載スヘシ

明治 年 月 日

何聯隊區司令官 氏

名 印

(附表其一)

徴兵事務條例施行細則第七様式ノ二

種 別	調 査 ス へ キ 例 目
身長五尺未滿	徴兵令第二十條第一項ニ當ル者ニシテ身幹未ダ定尺ニ滿ラス戊種トナリ翌年廻シノ者ヲ記入ス
疾病	徴兵令第二十二條第二項ニ當ル者ニシテ即チ疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘス戊種トナリ翌年廻シノ者ヲ記入ス
裁判未決	徴兵令第二十一條該當者即チ公權ノ剝脱者ハ停止ヲ附加スヘキ重罪ノ爲訊問者ハ拘留中ノ者ニシテ裁判ノ未タ決セサル者ヲ記入ス
家族自活シ能ハサル者	徴兵令第二十二條該當者即チ徴兵官ニ於テ其ノ家族自活シ能ハサルノ確證アルト認メタル者ヲ記入ス
學校生徒	徴兵令第二十三條第一項該當者即チ官立學校、府縣立師範學校、中學校等ニ在リシ徴兵令第二十三條第二項該當者ヲ記入ス
外國在留	徴兵令第二十三條第二項該當者ニシテ徵集猶豫ヲナシタル者ヲ記入ス但シ明治四十年一月一日以前露國領沿海洲、露國領薩哈連、清國、香港又ハ澳門ニ在リテ徵集猶豫中ノ者ハ含ハス
志願兵志願ノ爲メ徴兵検査未済ノ者	志願兵志願者ニシテ其ノ検査ノ爲メ徴兵検査ヲ受ケサル者ヲ記入シ其事由ヲ備考ニ記載スルコト
六週間現役ニ服スヘキ者	徴兵令第十三條第三項ニ依リ其ノ年六週間現役兵ニ服スヘキ者ノ全員(六週間現役兵ニ關スル身體検査成績ノ如何ニ關セス)記入スルモノトス
公權停止	總テ法令違犯ノ爲メ法律ニヨリ服刑中ノ者ヲ記入ス
逃亡失踪所在不明	所在不明ニシテ徴兵署ニ出頭セサル者ヲ記入ス

員	免役人員	徵集人員	除免人員	現役人員	中役人員	海軍志願兵
無事故不參	身長四尺八寸未滿	癩疾不具	身體檢查上徵集ニ適セサル者	徵兵上徵集ニ適セサル者	令第十二條ニ當リ三ヶ年ヲ過クル者	令第十三條第一項ニ當ル者
正當ノ事故アル不參者ヲ記入ス	正當ノ事故ナキ不參者ヲ記入ス	徵兵検査規則第三條第四項該當者ニシテ身長四尺八寸ニ滿タサル不合格ノ丁種ヲ記入ス	徵兵検査規則第二條該當者即チ疾病畸形ノ爲不合格トナリタル丁種ヲ記入ス但シ測尺不能者モ含ム	徵兵検査規則第三條第三項該當者ニシテ丙種合格者即チ國民兵役ニ服セシムル者ヲ記入ス	甲乙合格者中兵種徵兵ノ要旨ニ適セサル者並ニ定寸以下(定寸ヲ繰下ケ某寸ニテ要旨ヲ充シ得ル場合ニ在リテハ其ノ以下)五尺以上徵集ナ免除シ國民兵役ニ服セシムル者ヲ合記スルコト	家族自活シ能ハサルノ確證アリ其ノ事故三ヶ年ヲ過クルモ仍ホ止マサルモノニシテ國民兵役ニ服セシムル者ヲ記入ス
官立學校、府縣立師範學校、中學校若ハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校等ノ卒業證書ヲ所持シ若ハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ一ヶ年間陸軍現役ニ服スル一年志願兵ニシテ徵兵適齡ノ際既ニ當該現役ヲ終リタル者ヲ記入ス	官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立、公立小學校ノ教職ニ在ル者六週間現役兵トシテ徵兵適齡ノ際既ニ當該現役ヲ終リタル者ヲ記入ス	滿十七才以上二十才未滿ニシテ現役ヲ志願シ徵兵適齡ノ際既ニ現役中ニアル者ヲ記入ス	徵兵適齡ノ際一年志願兵トシテ服役中ノ者ヲ記入ス	陸軍常備兵籍ニ編入スヘキ志願兵即チ召集規則中ニアル各志願兵ニ採用セラレタル者ニシテ徵兵適齡ノ際現役中ノ者ヲ記入ス	海軍志願兵條例等ニ依リ服役志願者ニシテ徵兵適齡ノ際現役中ノモノヲ記入フ但シ兵籍ニ編入シタル生徒モ含有ス	

考	備
一、本表ノ區畫ハ實際ニ付キ適宜増減スヘシ	徵兵令第八條該當者即チ兵役ニ服スルコトヲ許サトル者ヲ記入ス
二、附錄壯丁體格表ハ本表ニ基キ調製スルモノトス	
三、本表四尺八寸未滿ノ人員ハ身長表ニ於ケル同人員ト符合スヘキモノトス	
四、本表徵集人員欄陸海軍現役兵及補充兵二十才並二十一才以上ノ人員ハ第七樣式ノ一ニ於ケル各相當區畫ノ人員ニ符合スヘキモノトス	
五、本表總計人員ハ既ニ報告シアル壯丁總員ト符合スルモノトス但シ報告後ノ異動ハ其旨備考ニ記入スルモノトス	



(附表其二)

徴兵諸表調製ニ關スル注意事項

- 一、本表縦計及横計ノ員數ハ各兵種毎ニ夫々條例第十八條又ハ第十九條ニ依ル「配賦員數及同區分表」ニ於ケル相當區畫ノ員數ト一致スヘキモノトス若シ一致セザルトキ(假ヘハ第七様式ノ七ヲ掲クル令第十二條志願者ノ關係又ハ身體検査上若ハ選兵上ニ依ル關係等)ハ其一致セサル員數ト之ニ附帶スル理由ヲ備考ニ詳記スルヲ要ス
- 二、陸軍現役兵、同補充兵及海軍現役兵、同補充兵二十歳及二十一歳以上ノ横ノ計ト徴兵表其二徴集人員欄各相當區畫ノ小計ノ員數トハ夫々一致スヘキモノトス(若シ一致セサル場合ニハ必ス其ノ何レカニ誤謬アルヘキモノナルカ故ニ精査スルヲ要ス以下同シ)

第七様式ノ一

(徴兵表其一)

- 三、總計欄二十歳ト二十一歳以上ノ員數ノ合計ハ第七様式ノ四(壯丁體)徴集人員欄横ノ合計ノ總員數ト一致スヘキモノトス
- 四、陸軍現役兵、同補充兵及海軍現役兵、同補充兵ノ縦ノ計ノ員數ハ各兵種毎ニ夫々第七様式ノ五(徴集及要員超過表)ニ於ケル相當區畫ノ計ノ員數ト一致スヘキモノトス(假ヘハ第七様式ノ一陸軍現役欄歩兵ノ計「二十歳」ト「二十一歳」以上ノ員數ノ合計ハ第七様式ノ五現役欄歩兵ノ甲種、第一乙種、第二乙種ノ計ノ員數ノ合計ト一致スヘキカ如シ)
- 一、徴集人員欄陸軍現役兵、同補充兵、及海軍現役兵、同補充兵ノ各小計欄二十歳ト二十一歳以上ノ員數ノ合計ハ甲程、第一乙種及第二乙種毎ニ夫々第七様式ノ四(壯丁體)徴集人員欄同一事項ノ合計ト一致スヘキモノトス

第七式 様

- 二、徴集人員欄ニ於テ陸軍現役兵ノ小計ト海軍現役兵ノ小計ノ合計並陸軍補充兵ノ小計ト海軍補充兵ノ小計ノ合計ハ甲種、第一乙種及第二乙種毎ニ夫々第七様式ノ五(徴集及要員)中現役兵及補充兵ノ横ノ計ノ甲種、第一乙種及第二乙種ノ各員數ト一致スヘキモノトス
- 三、徴集人員欄補充兵ノ區畫「令第十三條第五項、令第二十三條、令第二十七條及令第二十八條ニ當ル者」(抽籤ノ法ニ依ラス)ノ各區畫ニ甲種合格者ヲ有スル如キハ萬々ナキ筈ナルモ若シ之ヲ有スルトキハ其ノ事由ヲ備考ニ記載スルコト
- 四、徴集人員欄中「令第二十三條及令第二十七條ニ當ル者」ハ年齢二十一歳以上ノ者ナルコト勿論ナリ萬一「二十歳」ノ部ニ誤入スルコトナキヤニ注意ヲ要ス
- 五、徴集延期猶豫人員欄中「身長五尺未滿」、「疾病」及「家族自活シ能ハサル者」ノ員數ハ夫々第七様式ノ四ニ於ケル徴集延期人員欄同一事項ノ員數ト一致スヘキモノトス

兵 徴) 二 ノ

- 六、徴集延期猶豫人員欄「六週間現役ニ服スヘキ者」ノ區畫ニハ徴兵適齡以上ノ者ニシテ令第十三條第三項ニ依リ其ノ年六週間現役ニ服セシムヘキ者ノ金員(六週間現役兵ニ關スル身體)ヲ計上スヘキモノトス(六週間現役兵ニ關スル身體)ヲ計上スヘキモノトス(六週間現役兵ニ關スル身體)
- 七、徴兵延期猶豫人員欄(志願兵志願ノ爲メ)ノ區畫ニ記載ヲ要スル人員ハ多クノ場合ニ於テ之ヲ生セサル筈ナルモ若シ之ニ該當スル者アリタルトキハ其ノ事由ヲ備考ニ記載スルコト
- 八、徴集免除人員欄ノ各事項(令第二十三條第二項ニ當リ三十二歳ヲ過クル者ヲ除ク)「現役補充兵ノ要員ニ超過スル者」及「兵役免除人員欄ノ各事項」ノ員數ハ第七様式ノ四ノ徴集免除人員欄同一事項ノ員數ト夫々一致スヘキモノトス(兵役免除人員欄中「身長四尺八寸未滿」ノ人員ヲ誤テ

表 其 (二)

- 廢疾不具ノ欄ニ記入スルモノ尠カラス特ニ注意スルコト)
- 九、六週間現役兵條例施行細則第七條ニ依リ徵集免除兵役免除トナリタル人員アルモ徵集免除人員欄及兵役免除人員欄中ニハ計上セサルモノトス總テ本表(第七様式ノ二)中六週間現役兵ニ關スル人員ヲ掲クルハ「徵集延期猶豫人員欄」及「現役ヲ終リタル人員欄」ニ於ケル相當區畫ニ限ルモノトス
- 十、「現役補充兵ノ要員ニ超過スル者」ノ員數ハ甲種、第一乙種及第二乙種毎ニ夫々第七様式ノ五中「要員超過」ノ横ノ計ニ於ケル甲種、第一乙種、第二乙種ノ員數ト夫々一致スヘキモノトス
- 十一、兵役免除人員欄「身長四尺八寸未滿」ノ員數ハ第七様式ノ三(壯丁身)ニ於ケル「四尺八寸未滿」ノ員數ト一致スヘキモノトス
- 十二、現役ヲ終リタル人員欄ノ各區畫ニハ總テ徵兵適齡未滿ノ時既ニ當該現役ヲ終リタル者アルトキ徵兵適齡ニ達シタル年ニ於テ其ノ人員ヲ計上ス

ヘキモノトス

- 十三、現役中ノ人員欄「令第十二條ニ當ル者」ノ區畫ニハ徵兵適齡ノ年ニ於テ記入スヘキモノナルカ故ニ通常「二十一歳以上」ノ欄ニ記載スルカ如キ場合ヲ生セサルモノトス若シ何等カノ事故ニ依リ二十一歳以上ノ者ニシテ本項ニ該ル者アルトキ(假ハハ戶籍ノ誤リヨリ生スル場合ノ如キ)ハ其ノ事由ヲ備考ニ記載スルコト
- 十四、現役中ノ人員欄「令第十三條第一項ニ當ル者」ノ區畫ニハ徵兵終決處分ヲ受ケサル者ニシテ其ノ年一年志願兵ニ服役シツ、アル者ノ人員ヲ記載スルモノトス
- 十五、現役中ノ人員欄「陸軍志願兵」及「海軍志願兵」ノ區畫ニハ徵兵ノ終決處分ヲ受ケサル者ニシテ陸海軍ノ志願兵ト爲リ陸海軍ノ兵籍ニ編入セラレタル者ノ人員ヲ記載スルモノトス(徵兵適齡未滿ノ時ニ於テ陸海軍

ノ兵籍ニ編入セラレタル者ニ在リテハ徵兵適齡ノ年ニ於テ本表ニ計上スルモノトス

第七式様三ノ式様(表長身丁壯) 第七式様四ノ式様(壯體格)

- 一、「四尺八寸未滿」ノ員數ハ第七式様ノ四(壯體格表)「兵役免除人員欄」ニ於ケル「四尺八寸未滿」ノ員數ト一致スヘキモノトス
- 二、「測尺不能者」ノ員數ハ第七式様ノ四中「徵集延期人員」「徵集免除人員」及「兵役免除人員」欄ノ「測尺不能」ノ員數ノ合計ト一致スヘキモノトス
- 一、本表總計ニ於テ甲、第一乙、第二乙、丙、丁、戊ノ各種ノ員數ハ夫々第七式様ノ六(壯丁普通教育程度表)ニ於ケル合計欄中甲、第一乙、第二乙、丙、丁、戊ノ各種ノ員數ト夫々一致スヘキモノトス

第七式様六ノ式様(壯丁普通教育程度)

- 一、本表ニ掲クル教育程度ハ中學校、高等小學校、尋常小學校等ノ卒業證書ヲ所持シ壯丁名簿中ニ記入シアル者ハ之ニ依リテ記入シ學校ヲ卒業セザル者及商業學校、工業學校等ノ卒業生ニシテ其ノ程度ヲ判知シ難キ者ハ徵兵署ニ於テ施行スル學力検査ノ結果ニヨリ記入スルモノトス

第七式様十合ノ式様(依條二二) 現役志願者(員表)

- 一、本表備考ノ二ニ依リ調數スル「第何師管徵兵表附錄徵兵令第十二條ニ依ル現役兵志願採用者身長表」及「第何師管徵兵令第十二條ニ依ル現役兵志願採用者普通教育程度表」ノ二表ハ志願者中ノ採用者ニ就キ調製スヘキモノトス從ツテ該二表ノ員數ハ本式様(第七式様)ニ於ケル「採用者ノ本籍師管別」ノ欄ニ相當區畫ノ計ノ員數ト夫々一致スヘキモノトス
- 一、徵兵諸表ヲ提出書トシテ淨書ノ際記載ノ文字又ハ記入ノ區畫ヲ誤ラサル

備

コトニ注意スルコト

二、提出前諸表ニ就キ精密ナル讀合及檢算ヲナスコト

三、徴兵諸表中各様式ノ欄外記註等ニ依リ同一區畫ニ墨書ト朱書ヲ以テ區別

考

ヲ要スルモノ又ハ符號ヲ附シテ別記ヲ要スルモノ、如キニアリテハ適宜

其ノ區畫ヲ大ニシ文字ヲ明瞭ニ記載シ得ル如ク注意スルコト

### 第二款 陸海軍召集

(參照)

●陸軍召集條例

(明治三十二年十月 勅令第三百九十八號)

●陸軍召集條例施行細則

(明治三十二年十月 陸軍省令第二十九號)

●海軍召集條例

(明治三十一年十月 勅令第二百四十七號)

●海軍召集條例施行細則

(明治三十一年十月 海軍省令第十號)

●陸軍召集諸費支出規程

(明治四十一年五月 陸軍省令第十一號)

●海軍召集諸費支出規程

(明治四十一年六月三日 海軍省令第二號)

●豫後備兵等召集事務ノ整理ニ關スル件

(明治十七年三月二十四日 乙第五十四號)

各郡町村

豫備後備兵及常備歸休兵等非常召集ノ儀ハ最モ迅速ヲ要スル次第ニ付自今若シ右様ノ場合ニ臨ムトキハ郡役所戸長役場ニ於テ召集ノ達ヲ受ケシ時ハ其事務ニ費ス時間ヲ各二時トシ其時間以内整理完結致サス可ク旨其筋ヨリ照會ノ次第モ有之候間常ニ該名簿異動添削等夫々明瞭ニシ召集ノ日寸時モ遲滯不都合等無之様精々注意準備取計置クヘシ此旨相達候事

●陸軍々用旅舎ニ關スル件

(明治二十年三月八日 達甲第三十六號)

各郡町村

客年十月陸軍省令第三十九號陸軍召集條例第二十八條第二項軍用ノ旅舎ハ戸長ニ於テ至急之ヲ定メ標旗標燈ヲ調製セシメ標旗標燈ハ別ニ官ヨリ給セサルヲ以テ旅舎所有ノ國旗而シテ豫メ宿泊料ヲ規約シ置キ旅舎ノ屋號氏名等左ノ書式ノ通取調本月二十五日限リ郡役所へ届出テ同所ニ在テハ該書式ノ如ク表ヲ製シ本月三十一日限リ當廳へ差出シ亦旅舎ノ異動アルトキハ其時々戸長ヨリ速ニ當廳へ届出ツヘシ但宿舍料ハ一人一泊三食 晝辨當 金拾五錢ヲ上限トス

(書式)

驅員兵員凡ツ幾 名止宿ニ足ル	町村名及字 屋號	氏名	屋敷番號	宿舎料
凡ツ十八名	大洲町ノ内何町 何丁目何屋	何ノ誰	何千何百何十番地	金拾五錢
同	同	同	同	同

凡例 數町村聯合ノ戶長役場ハ所屬町村ノ順序ニ依リ之ヲ記註シ亦數郡管轄スル郡役所ニ在テハ每郡別表ニ調製スルモノトス

### ●在郷軍人及補充兵ノ召集通報人召集旅費受領人規則

(明治三十一年五月十七日 訓令第六十二號)

明治三十年六月陸軍省令第十六號ニ據リ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應スルモノニ關スル召集通報人召集旅費受領人規則左ノ通之ヲ定ム

在郷軍人及補充兵ノ召集通報人召集旅費受領人規則

- 第一條 休職停職ノ將校(將官除ク)及准士官下士兵卒竝補充兵ニシテ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應スル許可ヲ受ケタル者ノ召集通報人召集ノ令アルトキハ直ニ本人ニ通報スヘシ
- 第二條 召集通報人ヲ以テ召集旅費受領人ト定メ之ニ委任狀ヲ渡シ置クヘシ該受領人ハ召集實地ノ際召集令狀ニ示シタル期限内ニ應召員ノ旅費ヲ受領スヘシ
- 第三條 召集通報人召集狀其他ノ達ヲ受領シタルトキハ速達ノ方法ヲ以テ應召員ヘ通報

スヘシ

第四條 第一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遅緩シタルトキ及第三條ノ召集通報人正當ノ事由ナクシテ通報ヲ遅緩シ若クハ通報セサル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第五條 第二條ノ旅費受領人正當ノ事由ナクシテ旅費ノ受領ヲ遅緩シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●路程計算用管内里程表

(明治三十七年十月十四日 訓令第四十三號)

- 郡役所 警察署 同分署
- 縣立學校 多度津一等測候所
- 水産試験場 博物館 國幣社
- 市役所 町村役場

路程計算用管内里程表別冊之通相定メ本月十六日ヨリ實施ス

但別冊ハ別ニ頒ツ

明治二十三年十二月本縣訓令第百七十九號及明治三十一年一月同訓令第四號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(但シ別冊ハ土木ノ部ニ載ス)



### 海軍豫備後備下士卒ニ對スル召集旅

#### 費支給場並ニ區域

(明治四十年七月二十一日 告示第三百二十六號)

海軍豫備役後備役下士卒ニシテ縣下各郡市内在住ノ者ニ對スル召集旅費支給場並支給區域左ノ通改正ス

郡	市	名	支	給	場	支	給	區	域
大川郡	大川郡	大川郡	役	所	大川郡	一	圓		
木田郡	木田郡	木田郡	役	所	木田郡	一	圓		
小豆郡	小豆郡	小豆郡	役	所	小豆郡	一	圓		
香川郡	香川郡	香川郡	役	所	香川郡	一	圓		
綾歌郡	綾歌郡	綾歌郡	役	所	綾歌郡	一	圓		

郡	市	名	支	給	場	支	給	區	域
仲多度郡	仲多度郡	仲多度郡	津町役場		仲多度郡	一	圓		
三豐郡	三豐郡	三豐郡	役	所	三豐郡	一	圓		
高松市	高松市	高松市	役	所	高松市	一	圓		
九龜市	九龜市	九龜市	役	所	九龜市	一	圓		

### 陸海軍召集諸費分任出納官吏配置規程

(明治四十一年六月十四日 訓令第二十一號)

郡 役 所

陸海軍召集諸費分任出納官吏配置方左ノ通定メ發布ノ日ヨリ施行ス

陸海軍召集諸費分任出納官吏配置規程

第一條 郡役所ニ縣廳主任出納官吏所屬分任出納官吏ヲ置キ會計事務擔任ノ上席郡書記ヲ以テ之ニ充ツ

第二條 郡長ハ左記書式ニ依リ分任出納官吏ノ異動ヲ報告スヘシ

第三條 分任出納官吏交迭ノ際ハ其ノ事務引繼ノ日時ヲ定メ三日以前ニ知事ニ報告スヘシ

陸海軍召集諸費出納官吏異動報告書

(用紙小判野紙)

在職 所名	前任者		後任者	
	解職年月日	官氏名	就職年月日	官氏名

右及報告候也

年 月 日

何郡長 氏 名 印

知 事 宛

備 考

本報告書ハ交迭ノ際直ニ調製提出スヘシ

●海軍々用旅舎選定方

(明治四十二年七月八日 訓令第三十七號)

郡役所 警察署 警察分署

市役所 町村役場

海軍召集條例第二十條及同條例施行細則第二十五條ニ依リ市町村長ハ其ノ所轄内ニ於テ海軍召集ニ應スル者ノ休泊ニ充ツル爲メ海軍軍用旅舎ヲ選定シ左ノ様式ニ依リ旅舎名簿ヲ製シ七月末日迄ニ市長ハ直接該名簿一通ヲ當廳ニ差出シ尙所轄警察署警察分署憲兵隊憲兵分隊ニ通知シ町村長ハ郡長ヲ經テ該名簿一通ヲ當廳ニ差出シ尙直接所轄警察署警察分署憲兵隊憲兵分隊ニ通知スヘシ

前項ニ依リ選定シタル旅舎ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ新ニ軍用旅舎ヲ選定シタルトキハ其都度前項ノ手續ヲ爲スヘシ  
 第一項ニ依リ選定シタル旅舎ニハ海軍召集條例施行細則第二十六條ノ措置ヲ爲スヘシ  
 様式（用紙小判紙形十三行全野紙）

軍用旅舎名簿

間	數	壘	數	町（村）番地	屋號姓名

備考

間數欄ニハ休泊ニ充テ得ル室數ヲ記入スル事  
 壘數ノ欄ニハ休泊ニ充テ得ル各間ノ合壘數ヲ記入スル事

（参照）

海軍召集條例第二十條

地方長官ハ市町村長ヲシテ召集ニ應スル者ノ休泊ニ充ツル爲豫メ市町村内ニ於テ海軍軍用旅舎ヲ選定セシメ之ヲ憲兵隊及警察署ニ通知シ置クヘシ  
 陸軍召集條例施行細則第十七條

地方長官ハ軍用旅舎ヲシテ召集實施ニ方リ二十日間旅舎ニ掲クヘキ看板及標旗又ハ標燈ヲ準備セシムヘシ但平常之ヲ掲ケシムルモ妨ケ無シ

### 第三款 戒嚴、徵發

(參照)

- 戒嚴令  
(明治十五年八月 布告第三十六號)
- 徵發令  
(明治十五年八月 布告第四十三號)
- 徵發事務條例  
(明治十五年十二月 布達第二十六號)
- 馬匹徵發事務細則  
(明治三十二年十月 陸軍省令第三十一號)
- 馬匹ノ調査及檢査ニ關スル件  
(明治二十九年四月 法律第六十六號)
- 馬匹調査及檢査施行規則  
(明治四十二年七月 陸軍省令第十二號)
- 馬匹ニ關スル監督ノ爲馬政管區ヲ定ムルノ件(第五管區香川縣)  
(明治三十九年七月 內閣告示第三號)

### ●陸海軍官憲ヨリ徴發命令ヲ受タル物件等ノ届出方

(明治十六年七月三十一日 甲第百二十三號)

徴發令第六條及ヒ事務條例第十條ニ據リ船舶會社ノ店長若クハ船長亦ハ人民ニ於テ陸海軍官憲ヨリ直チニ徴發ノ命令ヲ受タルトキハ其物件等速ニ戸長ヲ經テ郡長ヘ届出ヘシ

右布達候事

### ●徴發ニ關スル卸小賣者ノ前一ケ年賣却數届出方

(明治十七年九月二十二日 甲第百六十號)

左ノ商業卸賣小賣ヲ爲スモノハ前一ケ年ノ賣却數別紙書式ニ倣ヒ毎年一月十日迄ニ戸長役場ヘ届出ツ可シ

玄米 精米 麥 鹽 醬油 漬物 梅干 味噌 薪 炭  
秣 藜

右布達候事

(別紙) 御 届

一玄米 何石何斗何升  
一精米 何石何斗何升

以下之ニ倣フ麥鹽醬油ハ何石味噌薪炭秣藜  
ハ何貫漬物梅干ハ何樽斗ト記ス可シ

右昨年中ノ賣却數相違無之此段御届仕候也

何郡何町村何番地

卸賣(或ハ小賣)商

平民(或ハ士族)

何

某印

年 月 日

何町村

戸長 役場

御 中

●徵發事務取扱手續

(明治十九年九月二十九日 達甲第二十五號)

(改正) 二〇年第一一二號

徵發事務取扱手續別冊之通改定ス

徵發事務取扱手續

各 郡 町 村

第一條 郡町村ニ於テ陸海軍官憲ヨリ徵發ノ命令ヲ受タル時ハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲スヘキハ勿論其場所及物件量數共電信若クハ急使ヲ以テ戸長ハ郡長エ郡長ハ縣廳エ届出ヘシ

第二條 明治十六年甲第百二十三號布達ニ據リ船舶會社ノ店長等徵發ヲ受タル旨届出ルトキモ亦第一條手續ノ如ク取計フ可シ

第三條 郡長ハ徵發ノ供給ヲ便宜ニセンカ爲メ常ニ隣郡ト商議其方法ヲ豫定シ又所轄内

町村ヲ適宜ニ割合シ組合町村ヲ定メ置ク可シ

**第四條** 組合町村ノ戸長ハ徵發令第十二條第九項第十三條第一項乃至第三項等ノ種類ハ徵發物件表中之レカ區畫ナキヲ以テ常ニ調査シ置クヘキハ勿論其他町村ノ區ニ係ルモノ及平常ノ賃價ヲ以テ賠償スヘキ者等平素注意取調速ニ供給ニ應スル方法ヲ協議豫定シ置クヘシ

**第五條** 徵發令第三十條徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スル運搬費ハ郡ノ徵發區ニ係ルモノハ郡長町村ノ區ニ係ルモノハ戸長ニ於テ地方ノ便宜ヲ量リ其時々賦課ノ方法ヲ定メ徵收支出スヘシ

**第六條** 郡町村ニ於テ物件ヲ賦課シキル本人エ賠償金交附スル迄假領收證ヲ付與シ又ハ一線繰換等臨時便方ヲ設クルモ妨ケナシ

**第七條** 事務條例第八條ノ證人ヲ要スルトキ其町村ニ住スル親戚或ハ預リ主又ハ同物品營業者共無之場合ニ於テハ戸長ニ於テ隣家若クハ近傍ノ者二人ヲ撰定シ立會ノ上調査

スルモ妨ケナシ

**第八條** 縣ノ徵發區ニシテ徵發ヲ受ケタル物件並ニ量數ヲ示達シタルトキハ營業者ヘ之レヲ賦課シ尙不足ヲ生スル場合ニ於テハ一時便宜ノ方法ヲ以テ其供給ヲ辨シ置キ其物件量數ヲ速ニ出張縣官若クハ縣廳ニ報告スヘシ

**第九條** 事務條例附錄第三號ノ一徵發物件表ハ左ノ諸項ニ照シ調製スヘシ

一 町數村數 各役場所轄ノ町村數ヲ算入スルモノトス但町數ノ畫ハ丁目ヲ區分シ村數ノ畫ハ原島浦濱等ノ類ヲ合算スヘシ

二 戸數 民家ノ現在軒數ヲ合算シ其ノ家屋ノ全部又ハ幾部ヲ官署（郵便局電信局警察署郡役所戸長役場等ノ類）若クハ學校ニ使用スルモノモ本畫ニ算入スヘシ

三 各戸坪數 民家ノ總坪數ヲ記入ス若シ其家屋ノ全部又ハ幾部ヲ官署若クハ學校ニ使用スルモノモ亦算入スヘキモノトス但總坪數トハ居住者ノ寢所庖厨ハ勿論建家内ノ土間ヲモ合算スヘシ

四人口 人口ハ戸籍調査ノ本籍人ヨリ出ヲ除キ入寄留ノ現在人員ヲ算入スルモノトス  
五人夫 年齢十七歳ヨリ六十歳マテノモノニシテ負擔ニ堪ユル業體即チ農夫漁夫輓夫  
日雇人足等總テ力役ニ從事スル者但兵籍ニアルモノト雖モ第一第二豫備徴員ハ合算  
記入スヘシ

六貸庫貨廐 本畫ハ貸庫ノ外自家ノ使用ニ供スルモノタリトモ暫ク空虛ト爲シ貸用ス  
ルモ支障ナキモノ又貨廐ノ外營業上他人ノ牛馬ヲ繫泊セシムルモノモ亦算入ス但貸  
庫貨廐共箇數ノミヲ記入スヘキモノトス

七官廨 縣廳郡役所戸長役場浦役場警察署裁判所郵便局電信分局官署ノ出張所等ノ類  
ニシテ民家又ハ寺院ノ全部ヲ使用スルモノ皆算入スヘキモノトス

八寺院軒數 一寺院内ノ家屋ハ幾軒數アルモ分別セス合算記入スヘシ若シ全部ヲ官署  
又ハ學校ニ使用スルモノモ算入スルモノトス

九寺院坪數 内陣ヲ除キ其他家屋ノ總坪數ヲ記入スヘシ若シ其家屋ノ全部又ハ幾部ヲ官

署若クハ學校ニ使用スルモノモ算入スヘキモノトス

十學校 一校内幾軒數アルモ其數及坪數ハ建坪ヲ合算記入スヘシ

十一水車場 本畫ハ製絲紡績抄紙等ニ用ユルモノ、外水車及蒸氣精米器械ノ別ナク一  
日一石以上ヲ搗舂スル箇數ヲ記載ス但蒸氣精米器械所アラハ水車場ノ欄ニ其數ヲ別  
掲シ<sup>\*</sup>印ヲ附スヘシ

十二病院 官公私立ノ別ナク其箇數ヲ記入スヘシ

十三職工 表式中雛形記載ノ外他ノ職工ヲ混入セス其順序ニ隨ヒ記入スヘキモノトス  
第十條 同條例附録第三號ノ二物件表ハ左ノ諸項ニ照シ調製スヘシ

一何驛 本畫ハ從前宿驛ノ唱呼アルニ拘ラス現今著明ノ場所ヲ記入スヘシ但著明ノ場  
所ト雖モ左ノ二項及三項掲示ノ箇所ハ本項ヘ記入スヘカラス

二何港 本畫ハ船舶輻湊通商繁盛ナル左ノ箇所ヲ記載スヘキモノトス

多度津港



三何市街 本書ハ管内著明ナル左ノ箇所ヲ記載スルモノトス

高松 丸龜

四何町其他ノ村落 何町ノ畫ハ一部落ヲナシテ何町ト名稱シタル場所ヲ記スヘキモノニシテ前項中市街中ノ一町名ヲ別擧スルモノニ非ラス右ノ外著明ノ場所ニアラサレハ其他ノ村落ニ記入スヘシ

五牛馬 本書中乘馬馬車ハ主トシテ使用ニ適スルモノヲ記入スヘキモノトス其乘駄相半スルモノハ飼主ノ指定ニ任ス耕馬モ亦之ニ准ス但乘馬本分ノ馬匹及種馬種牛ハ控除ス

六車輛 本書ハ各種ニ區別シ國稅徵收(下半年ノ國稅ヲ納メタル數)シタル數ノ内破解届ヲナシタル分ハ除キ十二月三十一日ノ現在數ヲ記入スヘキモノトス但官署ニ屬スル者ハ總テ控除ス

第十一條 附錄第三號ノ三物産ハ其年中收穫セシ總數玄米ハ陸米糯米ヲ除記シ醬油ハ國

稅徵收ノ検査ヲナシタル高每一郡ニ纏メ合算スルノ際四捨五入ノ法ヲ用ヒ石位ニ止メ記入スヘシ

第十二條 徵發物件表並ニ船舶表(附錄第三號同第五號)ノ諸表ハ總テ美濃白紙ヲ用ヒ十九年本縣乙第九十一號達雛形寸法ニ倣ヒ毎年十二月三十日調ヲ以テ戶長ハ之レヲ製シ二月一日限リ郡役所ヘ差出シ同所ニ於テハ一郡每一冊ノ物件表附錄第三號ノ一表正副二通其他ノ諸表ハ一通ヲ調製シ二月十五日限リ必ス縣廳ニ進達スヘシ

第十三條 附錄雛形第七號平均物價表ハ左ノ箇所各郡役所ニ於テ來ル明治二十年ハ前三ケ年ノ價額ヲ記載シ其翌年ヨリハ前一ケ年分ヲ取調ヘ物件表ト共ニ縣廳ヘ差出スヘシ  
高松市街 丸龜市街

第十四條 西洋形船舶増減アルトキハ所有者町村姓名ハ勿論船名並ニ年月日ヲ詳記シ其時々戶長ヨリ郡役所ヲ經テ兵事課ニ報告スヘシ但シ持主變換セシトキモ本文ニ準シ双方町村姓名等ヲシ記報告スヘシ

### 徴發物件調査方便概

(明治二十三年十一月二十六日 訓令第百七十六號)

(改正) 二三年第一八〇號

郡役所 市役所 町村役場

徴發物件調査方便概別紙ノ通改正相成候條自今右ニ依リ調査スヘシ  
徴發物件調査方便概

#### 第三號ノ一

- 一 本表ハ美濃紙ヲ用ヒ一郡一市毎ニ調製ス三府ノ市ハ一區毎ニ調製スヘキモノトス
- 二 表式第二行何郡(市)ハ三府ニ於テハ何市何區ト記スヘキモノトス
- 三 甲部ノ計ハ府又ハ市ニ於テ別ニ一市ノ計ノミヲ一表ニ調製シ各區ノ末ニ添付スヘキ者トス

四 合計ハ府縣ニ於テ別ニ甲部乙部ノ合計ノミヲ一表ニ調製シ各郡市ノ末ニ添付スヘ

キ者トス

五 乙部上欄第二行(何町)第三行(何村)ハ町村ノ區域内人家連接セルト散在セルトニ拘ハラス町村制實施ノ際他町村ト合併セサリシモノ即舊町村ヲ掲クルモノトス  
町村制實施ノ際數町村ヲ合併シテ成立シタル新町村ニシテ其町村内ノ人家連接シタルモノモ亦第二第三行ニ記載ス其人各家部落ニ散在シタルモノハ第四行ニ記載スルモノトス

六 同第五行組合町村ハ乙部第二行第三行ノ例ヲ本畫第一行ニ記シ乙部第四行ノ例ヲ本畫第二行ニ記スヘキモノトス

七 家屋畫内戸數ハ現在軒數ヲ掲クヘキモノニシテ其軒數トハ官廳寺院學校製造所水車場倉庫廐病院ヲ除クノ外人ノ現在住居スルト否トニ拘ラス市區町村内ニ現在スル家屋ノ棟數ヲ云フ又家屋ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校市區役所町村役場等ニ使用スルモノモ本畫ニ算入スヘキモノトス

同總坪數ハ家屋ノ總坪數ヲ記入ス又家屋ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校市區役所町村役場等ニ使用スルモノモ亦算入スヘキモノトス

同宿舍用坪數ハ官署學校市區役所町村役場等ニ使用スルモノヲ除キ計算スヘキモノトス

八 官廨畫ハ官署及市區役所町村役場等ノ箇數ヲ記入スヘキモノトス

九 寺院畫ハ軒數内寺院内ニ堂庵幾棟數アルモ之レヲ分別セス一寺院ヲ一軒トシ計算スヘキモノトス

同總坪數ハ各寺院ノ總坪數ヲ合算ス亦寺院ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校市區役所町村役場等ニ使用スルモノモ算入スヘキモノトス

同宿舍用坪數ハ官署學校市區役所町村役場等ニ使用スルモノヲ除キ計算スヘキモノトス

十 學校畫内軒數ハ學校内ニ教場寄宿舎等幾棟アルモ之レヲ分別セス一學校ヲ一軒ト

シテ計算スヘキモノトス

同坪數ハ各學校ノ總坪數ヲ合算スヘキモノトス

十一 製造所ハ公立私立ノ別ナク又製造物品ノ種類如何ニ拘ハラズ總テ掲クヘキモノトス但官立ニ係ルモノハ官廨ノ箇數ニ記入スヘキモノトス

十二 水車場ハ水車及蒸汽器械ノ別ナク一日一石以上ヲ搗舂スル箇數ヲ記入スヘキモノトス

十三 病院畫内軒數ハ病院内ニ病室幾棟數アルモ之レヲ分別セス一病院ヲ一軒トシ計算スヘキモノトス

十四 日本形船舶畫内舢舨小廻ノ畫ヘ日本形船舶五十石未滿及倉庫船水田耕作船及水災豫備船ヲ算入シ汽船ニ非ラサル西洋形船舶二十噸以上ハ五十石以上ノ畫ヘ二十噸未滿ハ舢舨小廻ノ畫ヘ朱書列記スヘキモノトス但游船渡船橋用船ハ表上スルニ及ハス

十五 醫師及職工ノ順序ハ表式ノ順序ニ從ヒ記入ス職工ハ他ノ職工ヲ混入セス表式ニ記載シタル職工ニ限り記入スヘキモノトス但一名ニシテ兩業ヲ兼ヌルモノ警ヘハ木挽職ニシテ柚職ヲ兼ヌルモノハ木挽職何名（内何名柚職兼業）ト記入シ柚職何名ノ内ヘ算入セサルモノトス亦表式職工中其郡市ニナキモノハ其ナキヲ記スニ及ハス

第三號ノ二

- 一 本表記載方ハ前第三號ノ一第一項乃至第六項ノ例ニ依リ調製スヘキモノトス
- 二 乘馬ハ現在乘馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ乘馬ニ役セシモノハ現今駕馬駄馬耕馬ニ役スルモノト雖トモ乘馬ノ書ニ記載スヘキモノトス
- 三 駕馬ハ現在駕馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ駕馬ニ役セシモノ（現在乘馬ハ除ク）ハ現今駄馬耕馬ニ役スルモノト雖トモ駕馬ノ書ニ記載スヘキモノトス
- 四 駄馬ハ現在駄馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ駄馬ニ役セシモノ（現在乘馬駕馬ハ

除ク）ハ現今耕馬ニ役スルモノト雖モ駄馬ノ書ニ記載スヘキモノトス

第三號ノ三

- 一 本表記載方ハ前第三號ノ一第一項第三項第四項ノ例ニ依リ調製スヘキモノトス
- 二 玄米ハ陸米糯米トモ算入スヘキモノトス
- 三 漬物ハ澤庵漬ヲ記入スヘキモノトス
- 四 一樽ハ四斗入ヲ以テ計算スヘキモノトス

### ●徵發馬匹取扱規則

(明治二十七年四月一日 縣令第十九號)

(改正) 二八年第四五號第六四號、二九年第六〇號

徵發馬匹取扱規則左ノ通之ヲ定ム

#### 徵發馬匹取扱規則

第一條 馬匹ノ徵發ハ戰時若クハ時變ニ際シ師團ノ出師ニ方リ咄嗟ニ之ヲ實施シ其馬匹ハ左ノ三種トス

乘馬 駕馬 馱馬

第二條 徵發ノ馬匹ハ總テ牡馬ニシテ體格強壯性質順良役務ニ適當ナルモノトス

但牡馬所用數ニ充タサルトキハ牝馬ヲ以テ之ニ充ツルヲ得

第三條 前條ノ馬匹徵集地ハ左ノ如シ

丸龜城北練兵場内 馬匹受領所

第四條 馬匹徵發ノ際ハ電文<sup>第一號</sup>案又ハ急使ヲ以テ<sup>第二號</sup>案郡市長ニ令達ス

郡市長ハ其令達ヲ受領セシトキハ直ニ電文又ハ急使ヲ以テ受領ノ報告ヲ爲ス可シ

第五條 郡長ハ第四條ノ令達ニ依リ豫テ格納スル徵發令狀ニ其通達書<sup>第三號</sup>案ヲ添ヘ急使

ヲ以テ町村長ニ送達ス可シ

但徵集地近傍ニシテ旅費ヲ給セサルモノハ徵發令狀ノ裏面旅費ノ欄ニ<sup>官印</sup>ヲ捺シ

市長ハ第四條ノ令達ニ依リ馬籍ニ基キ豫テ格納スル徵發令狀ニ馬匹ノ持主其他所用ノ記入ヲ爲シ之ヲ持主ニ交付シ其受領證ヲ取り置ク可シ

第六條 徵發令狀<sup>第四號</sup>様式ハ豫テ縣廳ヨリ郡市役所ニ送付シ同所ニ於テ格納セシム

第七條 町村長ハ郡長ノ達ニ依リ馬籍ニ基キ徵發令狀ニ馬匹持主ノ姓名其他所用ノ記入ヲ爲シ之ヲ持主ニ交付シ受領證ヲ取り置キ速ニ旅費支給所ニ到リ旅費金ヲ受取り徵集地ニ向テ其馬匹ヲ率キ出サシム可シ

但徵集地近傍ニシテ旅費金ノ支給ヲ受ケサルモノハ直ニ徵集地ニ向テ馬匹ヲ牽キ出サシム可シ

**第八條** 馬匹ノ持主徵發令狀ヲ受領セハ旅費支給所ニ就テ旅費金ヲ受取り徵發令狀ヲ携ヘ又駄馬ハ屬具ヲ併セ徵發セラレタルトキハ其屬具ヲ携ヘ少クモ一日十里詰ヲ以テ旅行シ馬匹ヲ徵集地ニ牽キ出シ馬匹受領所ニ到リ徵發馬匹委員ノ検査ヲ受ク可シ若シ馬匹ノ持主事故アリ自ラ牽キ出ス能ハサルトキハ代理人ヲシテ牽キ出サシムルモ妨ケナシ

但徵集地ノ近傍ニシテ旅費金ノ支給ヲ受ケサル者ハ徵發令狀受領ノ上直ニ出發スヘシ

**第九條** 徵發ノ馬匹ニハ馬匹持主ノ住所姓名馬匹ノ毛色用役ノ種類乘馬駕馬買入ノ年月日並ニ其原價等ヲ記シタル木札長サ四寸ヲ馬頸ニ結著シ置ク可シ

**第十條** 馬匹徵發ノ際其徵集地ニ往復シ若クハ解雇ニ際シ解雇地ニ往復スル人馬ニハ旅

費人馬ノ宿泊料ニ食餌ヲ含ムトシテ陸路ハ一里ニ付馬ハ金二錢五厘人ハ金三錢五厘ヲ支給シ海路ハ實費支拂(郡市町村長ノ證明書ヲ要ス)トス

**第十一條** 前條ノ里程ヲ算スルニハ郡市ヨリ徵集地若クハ解雇地ニ通スル最大ナル道路國道又ハ國道ノ開通セサル郡ハ縣道ニ就キ徵發令第四條ノ徵發區郡市境界ヨリ起算シ其端丁數ハ切捨ツ

**第十二條** 馬匹持主ハ自己ノ馬匹徵發馬匹委員ノ検査ニ合格シ借上ケトナリシトキハ徵發令狀ニ「借上」ノ朱印ヲ受ケ之ニ買上豫定價額ト番號ノ記入並ニ主任委員ノ捺印ヲ受ケ第十條ノ旅費金ヲ受領シ歸郷スヘシ委員ノ捺印セシ此徵發令狀ハ馬匹受領ノ證票ナルヲ以テ馬匹ノ持主ハ解雇ノ日迄之ヲ保存シ置ク可シ  
検査ニ合格シ買上トナリシトキ馬匹持主ハ委員ヨリ馬匹ノ代價並ニ第十條ノ旅費金ヲ受領シ歸郷ス可シ

不合格トナリシトキハ徵發令狀ヲ委員ニ返納シ第十條ニ依リ旅費金ヲ受領シ其馬匹ヲ牽キ返スヘシ

第十三條 馬匹持主歸郷セントキハ借上買上若クハ不合格トナリタル旨ヲ速ニ市町村長ニ申出ツ可シ

第十四條 市町村長ハ前條馬匹持主ノ申出ニ依リ其旨馬籍ニ明載シ置キ其員數ヲ第五號書式ニ依リ市長ハ縣廳ニ町村長ハ郡長ニ報告シ郡長ハ之ヲ取纏メ一表ニ製シ縣廳ニ差出ス可シ

第十五條 借上馬匹ノ持主他ノ市町村ニ轉居セントキハ直ニ舊住地ノ市町村長ニ届出ツ可シ

市町村長ハ其旨新住地ノ市町村長へ通報シ町村長ハ郡長ニ報告ス可シ  
但他ノ府縣ニ係ル異動ハ郡市長ヨリ縣廳ニ報告ス可シ

第十六條 借上馬匹ニハ受領當日ヨリ解雇當日迄第二十三條ノ賃價ヲ給ス

第十七條 借上馬匹解雇ノトキハ解雇ノ地名ト日時ハ其都度郡市町村長ヲ經テ馬匹持主ニ通達ス

第十八條 馬匹ノ持主前條ノ通達ニ接セハ旅費支給所ニ就テ第十條ノ旅費金ヲ受領シ指定ノ日時ニ解雇地ニ到リ徵發馬匹委員ヨリ自己ノ馬匹及第十條ノ旅費金並ニ第十六條ノ賃價ヲ受領シ徵發令狀ヲ委員ニ返納シ歸郷ス可シ

第十九條 馬匹持主徵集地若クハ解雇地ニ到着セシ上其當日馬匹ノ受渡ヲ終ルコト能ハサルモノアルトキハ徵發馬匹委員ニ於テ人馬ニ一泊ヲ命ス然ルトキハ人ニハ手當トシテ金十五錢ヲ支給シ馬匹ニハ糧秣ヲ官給ス

第二十條 馬匹持主ニ支給スル旅費金ハ縣廳ニ於テ臨時速達ノ方法ヲ以テ郡市長ニ送付ス

第二十一條 郡市長ハ前條ノ旅費金送付ヲ受ケントキハ直ニ該金ヲ馬匹持主ニ交付シ受領證ヲ取り置キ速ニ徵集地若クハ解雇地ニ到ラシムヘシ

第二十二條 旅費支給所ハ郡市役所内ヲ以テ之ニ充ツ若シ郡長ニ於テ郡役所ノ外特ニ支給ノ場所ヲ設クルヲ必要ト認ムルトキハ知事ノ認可ヲ受ケ其場所ヲ管内ニ告示ス可シ

第二十三條 郡市長ハ徵發馬匹ノ賃價ヲ調査シ第六號書式ニ依リ毎年一月二十五日迄ニ其賃價表ヲ縣廳ニ差出ス可シ（二十八年縣令六十四號改正ノ文）

第二十四條 毎年三月五日迄ニ出師年度間四月一日ヨリ翌年三月盡日迄ニ要スル馬匹ノ種類人數ヲ郡市ニ配布ス

郡長ハ馬籍ニ依リ之ヲ町村ニ配賦ス可シ

第二十五條 郡市長ハ前條配賦ノ馬匹數ニ基キ第十條ニ掲クル人馬ノ旅費ヲ豫算シ第七號書式ニ依リ毎年三月十日迄ニ縣廳ニ差出ス可シ

第二十六條 市町村長ハ毎年配賦ノ馬匹ヲ馬籍ニ基キ第二條ニ依リ豫メ選定シ常ニ其馬籍ニ明載シ置ク可シ

第二十七條 駄馬ニ要スル屬具（駄鞍其他荷綱雨覆等駄馬ニ要スル器具一式）ノ配布アリタルトキハ郡長ハ町村ニ配賦シ市町村長ハ前條ニ依リ馬匹選定ノトキハ馬籍ニ屬具併用ノ旨ヲ記シ豫メ其馬匹持主ヲシテ準備セシメ置キ徵發ノ際必ス其屬具ヲ携行セシム

ヘシ

第二十八條 郡市長ハ本規則實施ニ就キ便宜敏速處理ノ方法ヲ設ケ置ク可シ

第一號文案

（書式中。印ハ朱）

○郡長へ電信令達按

馬匹徵集ニ付九龜へ差出ス可シ

年 月 日

香川縣知事

第二號文案

○郡市長へ書面令達按

何々郡（市）長

這般馬匹徵集ノ義第五師團長ヨリ通知有之候間速ニ九龜へ差出候様取計フ可シ

年 月 日

香川縣知事

○（電信ヲ以テ令達ノ郡へハ書面送付セス）



第三號文按

○郡長ヨリ町村長へ達按

何 町 (村)

這般馬匹徵集ノ義本縣知事ヨリ令達有之候ニ付別紙徵發令狀何葉送付候條速ニ右令狀ヲ馬匹持主へ交付シ丸龜練兵場へ差出スヘシ

年 月 日

何々郡長

第四號

表

徵發令狀

何縣何郡市何町村大字何々  
持主

乘(駕)(駄)馬一頭

何 某

右徵用ヲ令ス

明治年月日

第五師團司令部印

裏

里程旅費	徵集地 受領所	丸龜(到ル里程 (端丁數ハ切捨)	旅	費
	丸龜城北練兵場	何 里	人一里ニ付金三 錢五厘	馬一里ニ付金二 錢五厘ノ割
前書之通金員相渡候也		金 何 十 錢	金 何 十 何 錢	
明治年月日		旅費支給吏何某印		



第七號書式

用紙美濃紙

何々郡(市)徵發馬賦課員數並旅費豫算表

郡市名		何 郡 何				町村名	馬 匹				徵發區域境 ヨリ丸線迄 里程	馬匹總數ニ 對スル旅費 概算
何	郡	何	郡	何	町		乘馬	駕馬	駄馬	計		
...		何	小	...	何							
...		何	村	...	村							
...		何	計	...	計							
												〇円

考 備	合 郡	
	合 計	小 計
一市ハ町村名ヲ除キ本表ニ依リ調製スヘシ		
一數郡ヲ合セ一郡役所ヲ置カレシモノハ每郡ニ小計ヲ掲グルモノトス		

### ●第十一師團雇員備人雇入規定

(明治三十五年十二月二十七日 訓令第六十四號)

郡役所 市役所 町村役場

第十一師團雇員備人雇入規定左記ノ通り定メラレ候條之ニ基キ執行スヘシ

但シ本規定第六條ノ期限ハ本年ニ限り各一ヶ月延期ス且又明治三十三年本縣訓令第十六號ハ自今廢止ス

#### 第十一師團雇員備人雇入規定

##### 第一章 總 則

**第一條** 本規定ハ戰時若クハ事變ニ際シ雇員備人ニ採用シ軍部ニ從事スヘキ志願者ヲ雇入ル、ノ手續ヲ定ムルモノトス

**第二條** 前條ノ志願者ハ左ノ資格ヲ具フルヲ要ス

其一 雇員備人一般ノ資格

年齢二十歳以上五十歳以下ニシテ身體健全ナル者身元確實ニシテ豫備後備補充兵役

ニアラサル者

但翌々年三月迄ニ五十歳ニ達セサル者重輕罪ノ宣告ヲ受ケタルコトナキ者

其二 衛生部雇員ニ要スル資格

醫術藥劑師開業試験ニ及第シタル者若クハ之ト同等以上ノ技備アル者

元陸軍看護長調劑手、看護手看護卒看病人磨工又ハ之ニ準スルモノ

前二項ノ者ハ平時ヨリ赤十字社ニ於テ雇入ノ契約ヲ爲サ、ル者タルヲ要ス

其三 獸醫部雇員ニ要スル資格

地方農學校獸醫科卒業者若クハ之ト同等以上ノ技備アル者

獸醫開業免狀ヲ有スル者

蹄鉄工開業免狀ヲ有スル者

元陸軍蹄鉄工長同蹄鉄工卒

其四通信員ニ要スル資格

電信學校卒業者遞信省若クハ私設會社ニ於テ一ケ年以上電信通信術ノ業務ニ從事シタル者

其五馬廠ノ兵卒其他馬卒代用者ニ要スル資格

元騎砲輜重兵卒及輪卒馬匹操業者若クハ之ト同等ノ經歷アルモノ

其六兵器廠ニ於テ雇入ルヘキ雇員備人ノ資格

鞍、銃、木鍛工長代用者ハ砲兵工廠兵器本(支)廠其他公私立兵器製造修理所等ニ於

テ二ケ年以上勤績セシモノニシテ高等小學以上ノ普通教育アルモノ若クハ地方ニ於

テ之ト同等ノ經歷アルモノ

鞍銃木鍛工卒代用者ハ前項ト同一ノ場所ニ於テハ六ケ月以上兵器ノ製造修理ニ從事

セシモノ

雇員備人ニ不足スル場合ニ在テハ銃工長(卒)ニハ鑄工鍛工ニ從事セシモノ鞍工長

(卒)ニハ靴工縫工ニ從事セシモノヲ採用スルコトヲ得

其七計手代用者ニ要スル資格

商業學校卒業者元陸軍計手又ハ銀行員其他計算記簿ノ業務ニ經歷アルモノ

第三條 雇員給料額ハ左ノ定額ヲ用途トシ尙(出戰勤務者ハ俸給額五分ノ)増給ス

一、高等官相當ノ者ニハ月額五十圓以上百圓迄ヲ給スルモノトス

二、判任官相當ノ者ニハ同二十圓以上三十圓迄ヲ給スルモノトス

三、動員及待命間臨時使役ノ馬卒及其他ノ備人並ニ徵發馬匹口附人(馬匹合格ノ上單(身歸郷ノ者ヲ含)

ハ)日額金六十錢以上七十錢迄ヲ給スルモノトス

四、前項備職工ノ日額金ハ一圓以上一圓二十錢迄ヲ給スルモノトス

第四條 雇員ニ給スル旅費ハ前條第一項ノ者ニハ陸路ハ車駕料一里十五錢汽車ハ一哩四

錢海路ハ一海哩四錢日當五十錢宿泊料一夜一圓ヲ給シ同第一項ノ者ニハ陸路ハ車駕料

一里十二錢汽車ハ一哩四錢海路ハ一海哩四錢日當四十錢宿泊料一夜八十錢ヲ給シ第三

第四項ノ者ニハ陸里ハ一里十錢汽車ハ一哩二錢海路ハ一海哩三錢日當十五錢宿泊料四

十五錢ヲ給ス但シ旅費ハ指定地ニ到着ノ上給スルモノトシ又陸路三里未満ハ旅費ヲ給セス

**第五條** 雇員及傭人ニシテ其業務ヲ終リ若クハ傷痍疾病等ニ依リ軍務ニ堪ヘサルトキハ雇入ヲ免シ雇入當時ノ居住地迄ノ旅費ヲ給ス

**第二章 雇入準備**

**第六條** 市町村長ハ毎年十一月第一條ノ志願者ヲ調査シ願書(附表第一様式)ヲ取纏メ町村長ハ十二月十日迄ニ郡長ニ郡市長ハ同二十日迄ニ縣知事ニ差出シ縣知事ハ之レヲ翌年一月十日迄ニ師團長ニ送付ス

但シ三ヶ年以内ハ志願ヲ繼續スルヲ得然ルトキハ其旨ヲ願書ニ明記スヘキモノトス

**第七條** 第十一師團動員計畫訓令ニ於テ示ス所ノ雇員傭人雇入分擔諸官ハ參謀長ヨリ雇入ノ通報ヲ受クレハ前條ノ調査書ニ基キ各雇入人員總數ノ少クモ四分一ノ豫備員ヲ加ヘテ適任者ヲ選定シ計畫訓令ニ示ス手續キヲ爲スヘシ

**第八條** 師團長ハ適任者ト認ムルトキハ毎年三月其雇入書(附表第二様式)竝ニ採用豫定

人名書(豫備員ヲ含有ス)ヲ縣知事ヲ經テ郡市長ニ送付ス

**第九條** 郡長ハ前項ノ雇入書並人名書ヲ受領セハ之ヲ町村長ニ送付ス市(町)(村)長ハ雇入書効力ノ發生スヘキ期日ニ注意シ前年受領セシ分ト各別ニ保管シ又採用豫定ノ者ヘハ其旨ヲ本人ニ内報スルモノトス

**第十條** 採用豫定ノ雇員若クハ傭人ニシテ身上異動アルトキハ其都度順序ヲ經テ師團長ニ届出ツヘシ

**第十一條** 採用豫定ノ雇員若クハ傭人ニシテ轉居若クハ轉籍シタル者アルトキハ第十一師團管内ニ在テハ元居住地ノ市(町)(村)長ハ第七條ノ雇入書ヲ新居住地ノ市(町)(村)長ニ送附シ他師管ニ在テハ之ヲ師團長ニ返附スヘシ

前項新舊居住地ノ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ報告シ知事ハ師團長ニ通報ス

**第十二條** 師團長ハ前條雇入書ノ返附ヲ受ケタルトキハ更ニ豫備員ヨリ採用シ第八條ノ手續キニ依リ雇入書ヲ發送ス

第十三條 縣知事ハ前條ノ雇入書ヲ受領セハ第七第八條ニヨリ本人ニ内報セシムルモノトス

第十四條 總テ代用者ノ選定ハ補助輸卒隊ニ採用セサルモノヲ選定スヘシ

第三章 雇入實施

第十五條 師團長雇入實施ヲ要スルトキハ其旨ヲ郡市長ニ達ス郡長ハ之レヲ町村長ニ達シ市(町)(村)長ハ之ニ從ヒ兼テ保管スル第七條ノ雇入書ヲ本人ニ送附スヘシ

第十六條 志願者雇入書ヲ受領シタルトキハ二十四時間以内ニ出發シ速ニ指定ノ部隊ニ參著スヘシ

第十七條 志願者雇入書ヲ受ケタル後傷痍疾病ニシテ規定ノ時限ニ出發シ能ハサル者及途中發病ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ其他ノ事故ニ在テハ官吏公吏若クハ船長驛長等ノ證明ヲ受ケ速ニ參著スヘキ部隊ニ届出ツヘシ

附 則

第十八條 本規定ハ明治三十五年十二月一日ヨリ之ヲ實施ス

但第十一師團衛生部雇員及獸醫部雇員雇入規定ハ本規定實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

雇員採用願

何縣何郡(市)何町(村)番地住(寄留)

姓 名

生 年 月

右者第十一師團雇員備人雇入規定ニ從ヒ(一)(二)(三)ケ年間戰時若クハ事變ニ際シ軍部ニ從事仕度御採用ノ上ハ諸法則嚴守可致ハ勿論時々ノ命令ニ服從シ職務ニ勉勵可仕候依テ履歷書相添ヘ此段奉願候也

右

明治何年何月何日

姓

名 印

第十一師團長爵 氏

名 殿

前書ノ通り相違無之候也

明治何年何月何日

何縣何郡市(町)(村)長 何

誰 ①

履 歷 書

原籍府(縣)郡(市)町(村)番地

現住所、、、、、、、、、

族籍職業誰子弟

氏 名

何年月日生

一何年月日何學校卒業

一何年月日醫術(藥劑師)開業試驗ニ及第

一何年月日醫術(藥劑師)開業免許狀下付

一何年月日ヨリ何年月日迄何所誰ニ就テ何々修業

一何年月日ヨリ何年月日迄何々ニ從事ス

一何年月日ヨリ何年月日迄何處ニ於テ醫術(藥劑師)開業(何々)

一何年月日陸軍(海軍)出身何年月日何官ニ進ミ何年月日退役

一何年月日何々ニ依リ賞(罰)等(罰ヲ受ケタルコトナシ)

右之通相違無之候也

右

氏 名 ①

雇 入 書

年 月 日

何縣何郡(市)町(村)

姓 名

右今般衛生部(獸醫部)(、、、、)雇員ニ採用可致候條何地何部隊ニ參著シ何官ノ指揮



ヲ受クヘシ

第十一師團長爵 氏

名 印

### ◎第十一師團平時運搬材料借上規程

(明治三十六年八月十六日 訓令第三十號)

郡役所 市役所 町村役場

第十一師團平時運搬材料借上ケ取扱規程別冊ノ通り定メラレ候條實施スヘシ  
但シ明治三十二年本縣訓令第七十三號平時借上ケ馬匹取扱規則ハ自今廢止ス

#### 第十一師團平時運搬材料借上規程

##### 第一章 總 則

第一 本規程ハ平時演習ニ要スル運搬材料借上ノ爲メ郡市役所町村役場及軍部ノ取扱フ可キ事項ヲ規定スルモノトス

第二 本規程ニ於テ運搬材料ト稱スルハ乘馬竝ニ荷物運搬ニ使用スル馬車、牛車、駄馬、轆馬、一人若クハ二人曳荷車、擔夫口附人等トス

第三 本規程ニ於テ集合地ト稱スルハ軍部委員ノ運搬材料ヲ検査スル地ニシテ供給地トハ運搬材料ノ供給ヲ受クル部隊ノ所在地ヲ云フ

第四 馬車、駄馬ノ借上ニ在テハ屬具(駄鞍、轆鞍、腹帶、鞍下(七島表一枚)車輛竝ニ頭絡、鞆、轍、荷綱、牽綱、雨覆)口附人ヲ併セ使用スルヲ常トス

但單ニ馬匹ノミヲ借上ル場合ニ在テハ屬具等ハ要セサルモノトス

第五 牛車ヲ借上ル場合ニ於テモ前條ニ準ス但前條ノ但書ヲ除ク

第六 乘馬ヲ借上ル場合ニ於テハ單ニ馬匹ト口附人ノミトス

第七 一人若クハ二人曳荷車ヲ借上ル場合ニ在テハ荷車及之ニ附屬スル荷綱其他附屬具悉皆トス

第八 擔夫及牛馬ノ口附人荷車轆夫ハ白痴不具ニアラスシテ尙左ノ資格ヲ有スルヲ要ス

- 一 擔夫ハ強健ニシテ荷物十六貫目ノ重量ヲ擔ヒ日々ノ運動ニ堪ヘ得ルモノ
- 一 牛馬ノ口附人ハ身體強健ニシテ牛馬ノ使用ニ慣レ且ツ普通ノ荷物ヲ積載シ得ルノ力量ヲ有スルモノ
- 一 荷車輓夫ハ身體最モ強健ニシテ一人ニテ二十五貫以上ノ荷物ヲ輓キ日々之ニ堪ヘ得ルモノ
- 第九 借上牛馬ハ左ノ諸項ニ合スルヲ要ス但馬匹ハ牡馬タルヘキコト
  - 一 乘馬ハ四尺六寸以上輓駄馬(耕馬ヲモ含有ス)ハ四尺四寸以上
  - 一 年齢五歳以上十四歳未滿
  - 一 體格強健ニシテ照癖ナキモノ
  - 一 輓馬ハ八十貫乃至百貫駄馬ハ二十四貫乃至三十二貫ノ重量ヲ日々負擔シ若クハ輓曳シ得之ニ堪ユルモノ
  - 一 牛ハ七十五貫乃至百貫ノ重量ヲ日々輓曳シ之ニ堪ユルモノ

- 第十 馬匹ニシテ平常蹄鉄ヲ裝セサルモノハ借上ノ後時宜ニ依リ裝鉄スルコトアルヘシト雖モ通常ハ牛馬共彙查ヲ用ユルモノトス
  - 第十一 凡テ馬匹及牛ヲ借上ルトキハ賣買豫定價格ヲ定メ置クヘシ其金額ニ就キ所有者ト熟議調ハサルトキハ軍部委員地方役員各別ニ評價シ之ニ所有者申出價格ヲ加ヘ平均額ニ據リ決定シ置クモノトス
  - 第十二 借上牛馬使用ノ爲メ斃死若クハ廢牛馬トナリタルトキハ賣買豫定價格ヲ以テ買上ルモノトス
  - 第十三 第四ノ屬具ハ役務ニ係ル原由ニ依リ其全部又ハ樞要ノ部分ヲ毀損シ使用ニ適セサル場合ニ於テハ臨時評價ノ上賠償スルモノトス但其不注意ヨリ生シタルモノハ此限リニ在ラス
- 前項ノ借上牛馬負傷等ニ係ル要償ハ使用濟引渡ノ後二十四時間以内ニ於テ爲スヘシ若シ此期限ヲ經過シタルトキハ無効トス

第十四 運搬材料ノ借上賃金ハ第二十一ニ示ス價格ニ基キ委員地方吏員ト商議ノ上決定スヘシ但借上中牛馬ノ口附人輓夫擔夫ノ宿泊食餌及牛馬ノ糧秣及厩繋ハ總テ官給トス

第十五 借上運搬材料ノ受授及金錢ノ收支ハ郡市毎ニ取纏メ之カ取扱ヒヲ爲スヲ常則トス但數多ノ運搬材料借上ノ爲メ各町村等ニ亘ル場合ニ在テハ便宜町村長ニ命シ業務ヲ分擔セシムルモ妨ケナシ

第十六 検査、借上契約、解備 金錢收支、決算其他ノ事務ヲ管掌セシムル爲メ借上委員ヲ定ム其組織左ノ如シ

- |     |         |      |            |
|-----|---------|------|------------|
| 輻重兵 | 大尉      | 委員首座 | 一人         |
| 獸醫  | 二、三等副監督 | 委員   | 各一人        |
| 計手  | 助手      | 助手   | 二人         |
| 輻重兵 | 下士卒     | 助手   | 六人内下士卒二兵卒四 |
- 但運搬材料ノ種類ニ由リ其組織ヲ變更スルコトアルヘシ

第十七 數個ノ委員班ヲ編成スル場合ニ在テハ別ニ委員長ヲ置キ總テノ事務ヲ總理セシム

第十八 各隊ニ於テ必要之際運搬材料ヲ借上ル場合ニ於テハ當該隊長本規程ニ準シ適宜借上事務ヲ規定シ之ヲ郡市役所ニ通知シ借上事務ヲ實施スルモノトス

第十九 借上馬匹ニ裝蹄スルハ臨時ノ命令ニ依ル

但乘馬ヲ借上ケタル時ハ其裝蹄ハ配屬部隊ニ於テ爲スヘシ

第二十 地方官衙公署ト運搬材料借上ニ關シ文書ノ往復ヲ爲スヘキモノハ師團司令部各隊長及委員長若クハ委員首座トス

第二章 賃金並ニ手當

第二十一 運搬材料借上ノ價格ハ左ノ如シ

- 一 乘馬一頭一日ニ付金八十錢以内但駄馬ハ屬具共
- 一 牛馬車(附屬具共)一輛ニ付金一圓以内

- 一一人曳荷車附屬品共一輛一日七十錢以内
- 一二人曳荷車附屬品共一輛一日金一圓廿錢以内
- 一擔夫一人一日ニ付金六十錢以内
- 一口付人ノ給料ハ一日一名金三十錢以内
- 第二十二 運搬材料借上賃金ハ總テ借上翌日（借上地供給地外ナルトキハ供給地著ノ翌日）ヨリ解備當日迄之ヲ給ス
- 第二十三 運搬材料ヲ借上當日若クハ供給地著ノ當日使用スルトキハ備貸日額ヲ給シ使用セサル時ハ四分ノ一（厘以下ハ四捨五入）額ノ手當ヲ給ス  
（法ニ依ル以下皆同）
- 前項借上賃金日額ヲ給スル場合ニ在テハ第二十四ノ手當ヲ併給セス
- 第二十四 集合地（検査場）ヲ距ル一里以外ノ地ニ住居スル者ヲシテ受檢ノ爲メ集合地ニ來ラシムルトキハ輸送手當トシテ一里（運搬材料所有者所管ノ市、町村）毎ニ其借上賃日額二十分ノ一ヲ給ス

- 第二十五 集合地ヨリ供給地ニ輸送スル間ハ十里毎ニ手當トシテ借上賃日額ノ全額ヲ給ス但一里以上五里未滿ハ同上半額ヲ給シ五里以上十里未滿ハ全額ヲ給ス
- 前項ノ手當ヲ給スル場合ニ在テハ第二十三ノ手當ヲ給セス但著當日使用セシ爲メ賃金ヲ給スル場合ニ在テハ前項ト比較シテ多キニ從テ支給ス
- 第二十六 検査ノ爲メ一泊（指定セシ検査當日ノ夜ヨリ算ス）以上滞留セシムルトキハ一泊毎ニ手當トテ借上賃金日額ヲ半額ノ給ス
- 第二十七 検査不合格ノ牛馬車輛（剩餘馬匹ヲ含有ス）ニハ歸郷手當トシテ第二十四ノ額ヲ給ス
- 第二十八 馬匹ノミヲ借上ケタルトキハ口附人歸郷手當トシテ一里毎ニ口附人雇賃日額十分ノ一ヲ給ス
- 第二十九 馬匹借上日數僅少ナルカ爲メ豫メ解備地ヲ指示シ口附人ヲ滞留セシムルトキハ手當トシテ一名一日二十五錢ヲ給ス
- 第三十 總テ借上ヲ解クトキハ歸郷手當トシテ第二十五ノ手當ヲ給ス

第三十一 借上ヲ解キタル後決算其他時限等ノ都合ニ依リ滞留セシムルトキハ第二十六ノ手當ヲ給ス

第三十二 牛馬車輛借上中ハ牛馬竝ニ其口附人及輓夫擔夫等ノ食餌及宿舍ハ官給スルヲ例トスト雖トモ時宜ニ依リ食料及宿泊料ヲ給シ自辨セシムルコトアルヘシ

第三十三 借上牛馬廢斃ニ屬シ口付人ノミヲ歸郷セシムルトキハ第二十八ノ手當ヲ給ス

第三十四 馬匹ノミヲ借上タル場合ニ於テ之ヲ解備スルニ際シ其口付人ヲ召集スルトキハ前條同様ノ手當ヲ給ス

### 第三章 地方事務

#### 其一 集合及解備

第三十五 各郡市長ハ第二ニ示ス運搬材料ノ現在數ヲ毎年一月盡日調ヲ以テ師團長ニ報告スルモノトス但乘馬駄馬ハ除ク

第三十六 運搬材料借上ノ通知ヲ受ケタル郡市役所ハ委員出張迄ニ左ノ諸件ヲ取扱フモ

ノトス

一所轄ノ町村ニ就キ運搬材料ノ調査ヲ爲シ第八第九ノ項目ニ合格スル人牛馬車輛ノ内

集合在ニ最モ近キモノヲ以テ所要數ヲ充スノ準備ヲ爲スコト

二所有者ニ集合地及集合時日ヲ達スルコト

三集合スヘキ運搬材料ノ種類及員數ヲ顧慮シ便宜ノ検査場ヲ豫選シ置クコト

第三十七 數多ノ運搬材料ヲ借上ル場合ニ在テハ各郡市ニ所要材料ヲ配當シ其集合地及集合時日ヲ達スルヲ以テ郡長ハ成ル可ク之ヲ集合地ニ近キ町村ヨリ逐次ニ配當スルコトニ注意スルヲ要ス

第三十八 委員出張シテ牛馬車輛ノ検査ヲ行フトキハ地方役員必ス之ニ立合フモノトス

第三十九 行軍途中等ニテ臨時牛馬車輛ノ補缺ヲ要スル場合ニ在テハ當該部隊長ヨリ直接ニ其借上ヲ地方役所ニ依頼スルコトアリ然ルトキハ直チニ其依頼ニ應シ軍隊ノ行動ヲ妨ケサル如ク迅速ニ之カ處置ヲ爲スヲ要ス

第四十 演習濟解備スル時ハ借上地ノ地方役員ハ可成其場ニ立合ヒ委員ト共ニ解備牛馬ヲ検査スヘシ若シ事故アリテ之ニ立合能ハサルカ或ハ同時敷所ニ於テ解備スル場合ニ於テハ解備地ノ地方役員ニ其代理ヲ依囑スルモノトス

第四十一 口付人ヲ使用セサル場合ニ於テ馬匹ヲ解備スル時ハ委員(第三十八ノ場合ニ於テハ其部隊長)ヨリ解備地ト解備日時ヲ豫メ借上地ノ郡市役所ニ通知ス然ル時ハ該役所ハ普ク之ヲ馬主ニ通達シテ其日限迄ニ解備地ニ參著セシムヘシ

但シ馬主正當ノ理由ナクシテ指示ノ日限ニ解備地ニ參著セサル時ハ其馬匹ハ解備地ノ地方役所ニ預ケ置キ馬主ヲシテ其費用ヲ辨償セシムルモノトス

其二 金錢收支

第四十二 借上運搬材料賃金手當金等ノ支拂ハ第四十三乃至第四十八ニ準シテ取扱フモノトス

但シ第三十九ニ依リ借上タル運搬材料ノ取扱ヒ手續モ亦之ニ準ス

第四十三 借上馬匹ニ係ル賃金及手當金ノ支拂ハ使用濟引渡ノ時馬匹受領乙證書(第七書式)ト引換ヘ支拂フモノトス牛ノ借上モ之ニ準ス

第四十四 借上運搬材料解備ノトキ委員ハ受領證書ニ解備月日等ヲ記入シタル後乙證書ヲ地方役員ニ交附ス地方役員ハ使用員數ニ應スル賃金及手當金ヲ計算シ總人牛馬ノ賃金手當金合計シタル受領證書(第一書式)ヲ作り之ニ乙證書ヲ添ヘ支拂ヲ委員ニ請求スヘシ

第四十五 第二十四乃至第三十四ニ該ル手當金ハ第二書式(甲乙丙丁)ノ受領證書ヲ以テ地方役員ヨリ委員ニ請求スヘシ

第四十六 口付人ナキ場合ニ於テ馬匹ノ解備ヲ要スル時ハ委員ハ其馬匹ヲ最寄地方役所ニ依託(第五書式)シテ馬主ニ引渡サシム其預托中ノ費用ハ約定額ニ依リ正當受領人ノ請求書ヲ以テ支拂ヲ第十一師團司令部(師團司令部ニ關セサル演習ニ在テハ當該ノ部隊以下皆同シ)ニ請求スヘシ此場合ニ於ケル賃金並ニ手當金ハ借上地ノ役員ヨリ支拂ヲ第十一師團司令部ニ請求スヘシ

第四十七 口附人輓夫擔夫備役中役務ノ爲メニ負傷シ又ハ重病ニ陥リ地方役所ニ預托シ

療養セシムルトキハ其費用ハ約定ノ額ニ依リ正當受領人ノ請求書ヲ以テ支拂ヲ第十一師團司令部ニ請求スヘシ

第四十八 借上牛馬斃死若クハ廢牛馬トナリ之ヲ買上ルトキハ地方役員ハ豫定買上價格ニ依リ受領證書(第三書式)ヲ作り支拂ヲ委員ニ請求スヘシ

第十三第二項ノ賠償金請求ノ手續亦前項ニ準ス

第四十九 廢斃牛馬ノ賣却ヲ地方役員ニ依頼シタルトキハ地方役員ハ第四書式ノ納金證ヲ委員ニ回送シ置キ納額告知書到着ノ際現金ヲ指定ノ金庫ヘ納附スヘシ

其三 牛馬主竝ニ口付人及輓夫擔夫ノ心得

第五十 左ノ各項ハ地方役員ヨリ嚴重ニ牛馬主若クハ口附人及輓夫擔夫ニ諭達スヘシ

一牛馬及車力借上中ハ軍隊ノ命令ヲ守リ自己ノ勝手ナル所業ハ嚴禁タルヘシ

二口附人ハ牛馬ノ疾病ニ罹ラサル様注意スヘシ若シ鞍傷其他疾病ニ罹リタルトキハ直ニ監視人ニ届出ヘシ

三口附人ノ不注意ヨリ生シタル牛馬ノ疾病ハ假令廢斃ニ至ルモ自辨タルヘシ

四牛馬沓竝ニ草鞋ハ凡テ自辨タルヘシ

五牛馬匹受領乙證票ハ牛馬主若クハ口附人ニ於テ保存シ解備ノトキ委員ニ差出スヘシ

六車力人夫擔夫途中疾病等ニ罹リタル時ハ監視人ニ届出其指圖ヲ受クヘシ決シテ自儘ナルコトアルヘカラス

七傭人ハ總テ裸體ヲ現ハスハ嚴禁トス

第五十一 郡市役員ハ牛馬検査ノ爲メ牽出サシムルトキ牛馬主若クハ口附人ヲシテ左記ノ牛馬匹名簿竝ニ物品ヲ持參セシムヘシ

馬匹(牛)名簿 (用紙半紙)

何縣何郡(市)(町)(村)(大字)何番地

一馬(牛)主ノ住所姓名

何 誰

二口附人ノ住所姓名

右 同 斷

三馬匹(牛)ノ產地

何縣何郡何(市)(町)(村)

四馬匹(牛)ノ年齢

明治何年何才

五馬匹(牛)ノ身長

何尺何寸

六馬匹(牛)ノ毛色

何毛

七別

何々

八馬匹(牛)ノ價格

何十何圓

九所轄町(村)役場ヨリ検査場ニ到ル里程

何里 (一里未満ハ切り捨ヘシ)

口附人ノ持參スヘキ物品

一飼麥一斗五升入叭或ハ袋

二飯行李 二個

三口附人ノ雨覆

四轆夫及牛ニ在テハ之ニ屬スル車輛(車輛用脂油)竝ニ荷造網駄馬ニ在テハ駄鞍及荷

造網積載荷物ニ要スル雨覆但シ荷造網ハ少クモ二週間日々使用ニ堪ヘ得ルモノタル  
ヘシ

五替沓 一裝

第五十二 郡市役員ハ荷車竝ニ轆夫擔夫ヲ検査場ニ差出ストキハ連名簿ヲ添フヘシ其轆

夫ニ在テハ一人轆二人轆ニ區分シ之ニ屬スル車輛屬具ノ品目表ヲ添ヘ擔夫ニ在テハ單

ニ連名簿ノミヲ添ユ

轆夫擔夫ノ携行スヘキ物品

一飯行李 二個

二雨具 一枚

三車輛及之ニ屬スル荷造網該網ハ少クモ二週間荷造ニ堪ヘ得ルモノ及荷物ノ雨覆(擔

夫ハ荷繩及棒)

第四章 軍部ニ關スル事務



其一 借 上

第五十三 運搬材料借上地ノ郡市役所ニハ師團司令部ヨリ豫メ左ノ件々ヲ通知スヘシ

一 委員長若クハ委員首座ノ官姓名

二 借上運搬材料ノ集合地及其時日

三 借上ヘキ運搬材料ノ種類及其數(所要數ト豫備數ト區別スヘシ)

四 借上豫定日數

五 口附人輓夫擔夫ノ所要數

第五十四 前條ノ調査ハ參謀部ニ於テ擔任スルモノトス

第五十五 委員ハ出發ニ際シ借上馬匹ニ裝鐵スルヤ否ヤノ訓令ヲ受ケ豫算金額ノ前受ヲ爲シ運搬材料ノ檢査ニ所要ノ物品ヲ携行スヘシ

第五十六 委員ハ地方役員ニ諮リ運搬材料ノ檢査場ヲ定メ馬匹(牛)名簿輓夫及擔夫ノ連名簿ヲ受領シ其持參物品ヲ檢査シ合格ノ牛馬ニハ賣買豫定價格ヲ定メ牛馬ニ番號札

ヲ附シ(番號ニ借上地名ヲ冠ス假令ハ丸龜第何號ノ如シ)牛馬受領證票ノ各項ニ記入ヲ爲シ(解備地ハ解備當日)其乙證

票ヲ牛馬主若クハ口附人ニ交附スヘシ

輓夫ニ在テハ檢査ノ後其車輛ニ前項ト同シ番號札ヲ附シ備入連名簿(第七書式其二)ニ備入月

日及日數ヲ記入シ備入證(第七書式其三)ヲ車輛ノ持主若クハ輓夫ニ交附ス(備入證ニハ使用日數ヲ記入ス)

擔夫ニ在テハ前項同様ニシテ單ニ備入名簿ニ記入シ備入證ノ本人ニ交附ス

第五十七 行軍ノ途中各部團隊ニ於テ補缺ノ爲メ臨時ニ借上クヘキ運搬材料モ亦前項ニ準シテ取扱フモノトス

第五十八 委員ハ合格牛馬ヲ各部隊ニ區分シ之ニ馬匹(牛)略名簿(第六書式)輓牛馬ニ在テハ之ニ屬スル車輛及其屬品ノ員數表駄馬ニ在テハ駄鞍及其屬品ノ員數表ヲ添ヘ各部隊ニ引渡シ其受領人ヨリ受領書ヲ受取置クヘシ

車力ニ在テハ合格者ヲ各隊ニ分區シ輓夫ノ連名簿ニ輓夫ニ屬スル車輛及其屬品ノ員數

表ヲ添へ前項ノ手續ヲ爲スヘシ  
擔夫ノ取扱モ前項ニ準ス

其二 解 備

第五十九 委員長若クハ同首座ハ運搬材料解備ニ先チ解備地及借上地ノ郡市役所ニ其場  
所ト日時ヲ通報スヘシ

第六十 運搬材料ヲ解備スルニハ成ルヘク借上地ノ地方役員立合ノ上之ヲ検査シ牛馬ハ  
其受領乙證票ヲ口附人又ハ馬主ヨリ受領シ之ニ解備月日地名及使用日數ヲ記入シテ地  
方役員ニ交附シ總賃金及手當金受領證書ヲ作ラシメ乙證票及番號札ヲ返納セシメ然ル  
後現金ヲ交附スヘシ

第六十一 若シ借上地ノ役員立合ヒ能ハサル時ハ解備地ノ役員ヲシテ前條ノ手續ヲ爲サ  
シム

第六十二 口附人ナキ場合ニ於テ馬匹ノ解備ヲ要シ地方役所ニ預托スル時ハ預托中ノ費  
用ヲ定メ(一日凡ソ二十五錢)馬匹預リ證ヲ受取り置ヘシ

第六十三 役務ニ基ク一時ノ疾病ニシテ買上ヲ要セサル牛馬又ハ第十三第二項ニ該ル牛  
馬ノ賠償ハ委員ニ於テ日數ヲ定メ休養及治療ノ爲メ一日金二十五錢ノ割ヲ以テ手當ヲ  
給シ解備スヘシ

第六十四 牛馬口附人孰レカ疾病事故アルトキ又ハ一人曳轆夫若クハ擔夫ニシテ疾病事  
故アル時ハ共ニ解備スヘシ此場合ニ於テハ口附人轆夫擔夫ノ隔ニ依リ附屬隊ニ於テ賃  
金竝ニ歸郷手當ノ概算前渡ヲ爲シ其受領證書ヲ一般ノ解備ニ先チ委員ニ送附シ委員ヨ  
リ入レ戻ヲ受クルモノトス若シ口附人轆夫擔夫ニシテ重病ニ陥リタルトキハ地方役所  
ニ委托シテ療養セシメ其費用ハ委員(行軍途中ニ在テ)豫メ地方役所ニ諮リ之ヲ定メ置  
クヘシ

二人曳轆夫ノ内一名前項ノ場合ニ在テハ他ノ一名ハ備繼キ其缺員ハ第十八ニ依リ補足

ノ手續キヲ爲スヲ得ヘシ

第六十五 疲斃牛馬ノ賣却ハ委員(行軍途中ニ)之ヲ地方役員ニ依頼シ其代金納付方ハ第

四十九ニ據リ取扱フヘシ

第六十六 前二項ノ手續キヲ爲シタル各部隊長ハ一般ノ解備時期ニ先チ其旨ヲ(第九書

ハ)委員ニ通報スヘシ

第六十七 同一地ニ於テ借上タル牛馬車輛車力等甚シク散在セルトキハ時宜ニ依リ各部

隊毎ニ解備セシムルコトアリ然ルトキハ各部隊ニ於テ前諸項ノ手續キヲ爲スヘシ

第六十八 前項ノ場合ニ於テ委員ハ馬匹(牛)受領申證票其他解備ニ依ル必要ノ書類ヲ

時機ヲ誤ラサル如ク各部隊ニ送附スヘシ

第六十九 行軍ノ途中各部隊ニ於テ臨時補助ノ爲メ運搬材料ヲ借上タルトキハ一般ノ解

備ニ先チ其旨ヲ委員ニ通報シ輓夫擔夫ノ連名簿且馬匹(牛)受領申證票馬匹名簿其他

解備ニ係ル必要ノ書類ヲ委員ニ送附スヘシ

第一書式

(用紙半紙野紙以下皆同シ)

受領證

一金何百何十何圓

内譯

名	稱	一日一人賃	一日一馬賃	品共	人數	馬數	小計
借上	駄馬	何十何錢	何十何錢	何十人	何十人	何千頭	金何百何十何圓

但何月何日何地ニ於テ雇入何月何日何地ニ於テ解備ニ付供給地着翌日(何月)ヨリ解備當日迄何日間ノ延日數何日間ノ賃金如本文(何日)

名	稱	一日一人賃	一日一馬賃	品共	人數	馬數	小計
借上	駄馬	何十何錢	何十何錢	何十人	何十人	何千頭	金何十何圓

但何月何日何地供給地着ノ處當日使用セラレサルヲ以テ人馬一日賃金何程四分一額

手當如本文

名	稱	一日一馬賃	馬	數	小	計
借上乘(轆)馬		何十何錢	何	千頭	金何十何圓	

但書前諸項ニ準ス

名	稱	一日一人賃	一日一牛馬	人員	牛馬數	小	計
借上轆牛馬		何十何錢	何十何錢	何十人	何十頭	金何百何十圓	

但書前諸項ニ準ス

名	稱	一日一人(二人)曳	人員	車	輛	小	計
荷車		何十何錢	何十人	何十輛	何百何十何圓		

但書前諸項ニ準ス

名	稱	一日一人賃(擔棒共)	人員	小	計
擔荷		何十何錢	何十人	金何十何圓	

但書前諸項ニ準ス

右金額正ニ受領候也

何縣何郡何市(町)(村)長(代理)

明治何年何月何日

何

誰印

注意

- 一、本證書ハ地方役員ノ名義ヲ以テスルトキハ印紙ヲ要セサルモ馬主總代又ハ口附人等ノ名義ナルトキハ之ヲ貼用スヘシ他ハ皆之ニ倣フ
- 二、馬主總代又ハ口附人等ヨリ出ス證書ハ居住番地ヲ記入スヘシ以下皆同シ
- 三、馬主總代人ノ受領書ニハ必ス各人ノ委任狀(連名トスルモ妨ナシ)ヲ添附スヘシ

第二書式 (甲)

受領證

一金何十何圓

內譯

同	輸送手當	名	稱	馬數	馬匹常住地所管 ノ市(町)(村)役 場所在地	里程	人馬一日賃價 ノ二十分一額	小計
		何頭	何頭	何頭	何縣何郡(市)何 町(村)	何里	何錢何厘	何圓何拾錢
何頭	何頭	何々	何々	何十何里	何錢何厘	何拾何圓		

但何縣何郡(市)何町(村)集合地迄各馬匹常住地ヨリ一里毎ニ人馬一日賃金何程ノ二  
十分一額ニテ如本文  
右金額正ニ受領候也

何縣何郡何市(町)(村)長(代理)

明治何年何月何日

何 誰印

注意

- 一、里程ノ計算ハ一里未滿ハ切捨ヘシ他皆同シ
- 二、此外ノ運搬材料ニ係ル手當金受領證モ之ニ準シテ調製スヘシ

第二書式 (乙)

受領證

一金何拾何圓

內譯

同	輸送手當	名	稱	馬匹	自集地至 供給地里程	人馬一日 賃價ノ全額	人馬一日 賃價ノ半額	小計
		何頭	何頭	何頭	何里	何拾何錢	何拾何錢	何圓何拾錢
何頭	何頭	何里	何里	何拾何錢	何圓何拾錢			

但何縣何郡(市)町(村)集合地ヨリ何縣何郡(市)何町(村)供給地迄十里(五里以上十里未満ハ十里ノ額)毎ニ人馬一日賃金何程ノ全額(二里以上五里未満ハ半額)ニテ如本文

右金額正ニ受領候也

何縣何郡何市(町)(村)長(代理)

明治何年何月何日

何 誰 印

第二書式 (丙)

受領證

一金何拾何圓

內 譯

名 稱	馬 數	馬匹常住地所管 ノ市(町)(村)何 所在地	里 程	人馬一日賃價 ノ二十分一額	小 計
-----	-----	-----------------------------	-----	------------------	-----

不合格馬匹 歸郷手當	何 頭	何縣何郡(市)何 町(村)	何 里	何 錢何厘	何圓何十錢
---------------	-----	------------------	-----	-------	-------

同	何 頭	右ニ同シ	何拾何里	何錢何厘	何圓何十錢
---	-----	------	------	------	-------

但何縣何郡(市)何町(村)集合地ヨリ各馬匹常住地所管ノ役場迄一里毎ニ人馬一日賃金何程ノ二十分一額ニテ如本文

滯留手當	何 頭				何圓何十錢
------	-----	--	--	--	-------

但何縣何郡(市)何町(村)集合地ニ於テ何月何日ヨリ何月何日迄何日間滯留セシメラレタル延日數何日間一日人馬雇賃日額ノ半額何程ニテ如本文  
右金額正ニ受領候也

何縣何郡何市(町)(村)長(代理)

明治何年何月何日

何 誰 印

注意

借上人馬歸郷手當受領證ノ書式ハ本書式ニ準ス借上ヲ解クニ際シテ決算其他時限等ニ因リ滯留セシムルモノ、手當等皆同シ

第二書式 (丁)

受領證

一金何拾何圓

內譯

同	口附人歸郷手當	名 稱	人數	口附人常住地所管ノ市(町)(村)役場所在地	里 程	一日一人雇賃十分一額	小 計
何 人	何 人	何縣何郡(市)何町(村)	何 里	何縣何郡(市)何町(村)	何 里	何 錢 何 厘	何 圓 何 拾 錢
何 人	何 人	何縣何郡(市)何町(村)	何 拾 何 里	何 拾 何 里	何 錢 何 厘	何 圓 何 拾 錢	何 圓 何 拾 錢

但何縣何郡(市)何町(村)集合地ニ於テ馬匹借上ニ付同所ヨリ口附人常住地所管ノ役場迄歸郷手當一里毎ニ口附人雇賃日額ノ十分一額ニテ如本文

留待手當

何 人

何圓何十錢

但何月何日ヨリ何月何日迄日數何日間何縣何郡(市)何町(村)豫定解備地ニ留待セシメラレタル延日數何日間一日一名何程ニテ如本文

右金額正ニ受領候也

何縣何郡何市(町)(村)長(代理)

何

誰 印

第三書式

受領證

一金何拾圓

內 譯

名	稱	馬	數	一頭ノ價	小	計
斃	馬	何	頭	何十圓	何	十圓
廢	馬	何	頭	何十圓	何	十圓

但何月何日何縣何郡(市)何町(村)ニ於テ借上中斃死(廢馬)ニ付買上代  
右金額正ニ受領候也

何縣何郡何市(町)(村)長(代理)

明治何年何月何日

何 誰 印

第四書式

納 金 證  
一金何圓

內 譯

名	稱	何	數	一頭ノ價	小	計
廢	馬(牛)	何	頭	何圓何十錢	何	十圓
斃	馬(牛)	何	頭	何十錢	何圓何十錢	

但何々隊軍馬何號(何第何號何縣何郡(市)何町(村)何某所有借上馬)何月何日何郡  
(市)何町(村)ニ於テ廢斃ニ付御拂下代  
右金額正ニ上納候也

何縣何郡何市(町)(村)長(代理)

明治何年何月何日

何 誰 印

第五書式

馬匹預リ證



一 乘馬鹿毛 (何隊附何第何號) (何々隊軍馬第何號)  
 一 馱(駕)馬栗毛 (何縣何郡(市)何町(村)何某所有馬)  
 (右 同 斷)

但一日一頭預リ料(治療代共)金 拾何錢ノ約  
 右病馬ニ付治療中 (又ハ何々) 屬具何々共正ニ預リ候也

明治何年何月何日  
 何縣何郡何市(町)(村)長(代理)  
 何 誰 印

第六書式

借上馬匹略名簿

所有主住所	同上	姓名	番	號	毛	色	屬	具
何縣何郡(市)何町(村)何	何	誰	何	第	一	號	鹿	毛
							何	々

借上馬匹委員首座

明治何年何月何日於何地

官 姓 名

注 意

缺點ノ區畫ニハ檢査ノ際見認セシ缺點(鞍傷類)ヲ記入ス

第七書式其一

借 上 馬 匹 (牛) 受 領 證 票			
番 何 第 何 號	馬 主 住 所 姓 名	何 縣 何 郡 (市) 何 町 (村) 何 誰	口 附 人 住 所 姓 名
			右 同 斷
借 上 月 日	解 備 月 日		
借 上 地 名	解 備 地 名		
馬 匹 (牛) ノ 種 類	乘 (鞍) (馱) (屬 具 車 輛) 共	借 上 一 馬 匹	
豫 定 買 上 價 額	日 賃 金	口 附 人	
假 渡 賃 金	使 用 日 數		
缺 點			

(甲)

前書之通借上候也

明治何年何月何日

第十一師團借上馬匹委員首座  
陸軍何々 姓 名 印

割印

(乙)號書式

(甲)號ニ同シ

第七書式其二

備人車力連名簿

處有者(輓夫)住所	同上姓名	番 號	車輛ノ種類及屬具 ノ品目	備入日數
何縣何郡(市)何町 (村)	何 誰	何 第一號	一人曳車輛附屬品 何々	自何月何日 至何月何日
何縣何郡(市)何町 (村)	何 誰	何 第一號	二人曳車輛附屬品 何々	自何月何日 至何月何日

運搬材料借上委員首座

官 姓 名

明治何年何月何日於某地

擔夫ノ連名簿モ之ニ準ス第四段ノ行ヲ省ク

第七書式其三

備 入 證

何縣何郡(市)何町(村)

車力(擔夫) 何 誰

右自何月何日日數何日間一日賃金何圓何十錢ヲ以テ備入候ニ付テハ軍隊ノ命令ハ堅ク遵奉シ決シテ勝手ナル所業ハ嚴禁ス解備ノ際ハ此證票ヲ軍部ノ委員ニ返納スヘシ

運搬材料借上委員首座

官 姓 名

明治何年何月何日於某地

注意

二人曳車輛ナレハ住所竝ニ姓名ヲ連記スヘシ  
(注意)

第八書式

此ノ證書ハ立合地方吏員管轄ニ屬スル市(町)(村)毎ニ調製スルモノトス

(甲) 借上運搬材料	受領總計證	第 何 號
借上地名	運搬材料種類	借上馬匹受領證票番號
何縣何郡 (何市(町)(村))	何 頭 (輛)	從第 何 號 至第 何 號
前書之通正ニ受領候也		
明治何年何月何日		
陸軍何々 姓 名 印		
第十一師團借上馬匹委員首座		
明治何年何月何日		

割印

第九書式

見 認 證

馬匹ノミニシテ  
牛ニハ此對不用

所有主ノ姓名	番 號	毛 色	年 齡
某	廣島 第何號	青	

右明治何年何月何日何地ニ於テ何々ノ爲メ負傷(疾病)(斃死)云々ヲ見認候也  
年 月 日

縦列長(大小行李監視人)

官 姓 名 印

#### 第四款 志願兵 六週間現役兵

(參照)

- 陸軍一年志願兵條例 (明治三十七年三月 勅令第八十四號)
- 陸軍一年志願兵條例施行細則 (明治三十七年三月 陸軍省令第十三號)
- 海軍志願兵條例 (明治三十二年三月 勅令七十一號)
- 海軍志願兵徵募細則 (明治四十一年九月 海軍省令第十號)
- 陸軍六週間現役兵條例 (明治四十一年二月 勅令第九號)
- 陸軍六週間現役兵條例施行細則 (明治四十一年二月 陸軍省令第三號)
- 海兵徵募官服務規則 (明治二十二年十月 海軍省達第四百十五號)

●海軍志願兵戸籍異動報告方

(明治三十一年十一月三日 訓令第二百二十九號)

市役所 町村役場

海軍志願兵ノ戸籍異動若クハ家族ノ轉籍又ハ失踪等ノ場合ニ於ケル報告ハ本年四月海軍省令第四號ニ據リ各市町村長ヨリ提出ス可キ義ニ候處往々報告洩トナル向有之夫レカ爲メ整理上尠カラサル支障ヲ來タシ候趣ヲ以テ其筋ヨリ照會ノ次第モ有之候條右等ノ場合ニ於テハ其都度無洩報告候様取計ヘシ

●海軍志願兵検査場用品購入借入方

(明治三十四年一月二十五日 訓令第十一號)

郡役所 市役所

海軍兵及屯田兵志願者検査場用品購入並ニ借入方ハ本年本縣訓令第八號ニ準シ取扱フヘシ

### 海軍志願兵戸籍異動報告方

(明治三十五年十一月十五日 訓令第五十七號)

市役所 町村役場

海軍志願兵ノ戸籍異動若クハ家族ノ轉籍又ハ失踪等ノ場合ハ明治三十一年四月海軍省令第四號ニ依リ市町村長ヨリ報告スヘキノ處右ハ家族扶助金支給上重要ノ事項ナルニ往々報告洩レノ向有之爲メニ過誤拂ヲ生シ整理方支障不尠旨其筋ヨリ申來候條自今左記様式ニ依リ無洩報告候様取計フヘシ

#### 海軍志願兵戸籍異動報告

年月日	摘要	原籍	志願兵氏名
	長男某出生(死亡)		
	父某死亡兄某戸主トナル		

某妻某長男某ヲ携ヘ何地ヘ分家ス			
兄某妻某入籍(離婚ノ爲メ除籍)			
廢家ノ上何地某方ヘ入籍			
全戸若クハ某何地ヘ轉籍ス			
全戸若クハ某所在不明トナル			
全戸若クハ某處在不明ノ處何地ヘ現住スル旨判明ス			
戸主異動ニ依リ字何々番地トナル			
郡町村廢合ノ結果何郡市町村字何々番地トナル			
妹某何地何某ト婚姻ニ付除籍			
弟某何地何某方ヨリ協議離縁復籍			

右及報告候也

明治 年 月 日

何府(縣)何市(郡)(區)何町(村)長

吳(何々)鎮守府經理部宛

備考

志願兵本人分家若クハ養子縁組等ノ場合ニハ戶籍謄本ノ添付ヲ要ス

### ●海軍志願兵戶籍上異動報告差出方

(明治三十七年十一月十七日 訓令第四十六號)

市役所 町村役場

本年二月海軍省令第四號(本令施行以前ハ三十一  
 年四月海軍省令第四號)ニ據リ各市町村長ヨリ吳海軍經理部  
 ニ送致スヘキ海軍志願兵戶籍異動報告ハ明治三十五年十一月本縣訓令第五十七號ノ通り  
 家族扶助金給與ノ資料ニ供スルモノニシテ其完備ト否トハ支給成蹟上ニ大ナル關係ヲ有  
 スル次第ニ候處今以テ苟且ニ付スル向不尠中ニハ該報告ヲ以テ海軍下士卒服役條例第四  
 十三條ニ據リ戶主ヨリ鎮守府兵事官へ提出ノ届書ト混同視シ自然脫漏ヲ生スルモノ有之  
 哉ノ趣ニ付自今右等ノ誤解無之様厚ク注意シ異動ノ時々速ニ報告候様取計フヘシ  
 (參照)

●海軍省令第四號 (明治三十七年二月)

市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ハ海軍志願兵及其ノ家族ニシテ左ノ事項ニ當ル者アルトキ

ハ志願兵在籍所在地ノ海軍經理部ニ報告スヘシ

- 一 戸籍ニ異動アリタルトキ
  - 二 轉籍ヲ爲シタルトキ
  - 三 家族所在不明ト爲リタルトキ
  - 四 所在不明ノ家族所在判明セシトキ
- 海軍志願兵ノ家族轉居シタルトキハ其ノ家族ハ直ニ志願兵在籍鎮守府所在地ノ海軍經理部へ届出ヘシ

### 第五款 陸海軍恩給、扶助料、年金、特別 賜金、一時金

(參照)

- 軍人恩給法 (明治二十三年六月 法律第四十五號)
- 軍人恩給法施行規則 (明治二十三年七月 同令第五號)
- 陸軍々人恩給取扱手續 (明治二十三年七月 陸軍省令第二十二號)
- 下士卒家族救助令 (明治二十七年四月 勅令第九十四號)
- 下士卒家族救助令施行規則 (明治二十七年四月 内務省令第三號)
- 特別賜金賜與手續 (明治二十七年六月 陸軍省告示第十九號)
- 行賞賜金取扱規則 (明治二十九年八月 大藏省令第三十六號)



### ●下士兵卒家族救助令施行細則

(明治三十七年七月八日 縣令第四十四號)

本年勅令第九十四號下士兵卒家族救助令施行細則左ノ通り相定ム

#### 下士兵卒家族救助令施行細則

**第一條** 施行規則第一條ノ願書ハ別紙書式ニ依リ住所地市町村長ニ差出スヘシ  
願書ヲ作製スルコト能ハサルモノハ口頭ヲ以テ申出ツルコトヲ得但此場合ニ在テハ市  
町村長ニ於テ聞取書ヲ作り之ヲ願書ニ代用スヘシ

**第二條** 前條ノ願書又ハ申出ヲ受ケタル市町村長ハ左ノ各項ヲ精査シ救助ノ要否並救助  
種類ノ當否ニ就キ意見ヲ付シ尙戶籍謄本ヲ添付シテ市長ハ知事ニ町村長ハ郡長ニ差出  
スヘシ  
但施療ニ在テハ藥價並豫後ノ日數ヲ見積リ添申スルヲ要ス

- 一、家族中應召者ノ人員
- 二、應召者兵役ノ種別(豫備役、後備役、補充兵役、現役延期)

三、資産ノ有無及其種類價格

四、家族各自勞役ノ能否及職業ノ別

五、家族各自所得ノ有無及其額

六、戶別割ノ負擔額(其市町村ニ於ケル何等ヨリ何等ニ至ル何等中ノ何等ニ當ルカヲ記載スヘシ)

七、扶養義務者其他救護者ノ有無並扶養者ハ救護シ能ハサル事由

八、生計ノ現狀

九、其他必要ト認ムル事項

**第三條** 郡長ニ於テ前條ノ書面ヲ受ケタル時ハ町村長調査ノ當否ニ就キ意見ヲ付シ知事  
ニ進達スヘシ

**第四條** 生業扶助ハ生業ニ要スル物品又ハ其費用ヲ一時限り又ハ數回ニ給與スルモノト  
ス

**第五條** 現金給與及現品給與ハ毎月十日迄ニ其月分ノ給與額ヲ下付スルモノトス

- 第六條 施療ヲナス場合ハ市町村長ニ於テ適當ノ醫師ヲシテ治療セシムヘシ
- 第七條 現品給與ヲナス場合ニ在テハ市町村長ニ於テ購入ノ手續ヲナシ之ヲ給與スヘシ
- 第八條 適當ナル團體又ハ其他ノ施設者アル時ハ救助ヲ委囑スルコトアルヘシ
- 市町村長ハ團體又ハ其他ノ施設ニシテ救助ヲ委囑スルニ足ルモノアリト認メタル時ハ其目的資力等ヲ調査シ市長ハ知事ニ町村長ハ郡長ヲ經由シテ其旨ヲ上申スヘシ
- 救助ノ委囑ヲ受ケタル團體又ハ其他ノ施設者ニ於テ被救助者ニ給與スヘキ現金或現品ノ購入及施療ニ要スル費用ハ其額ヲ指定シテ之ヲ交付ス
- 第九條 市町村長又ハ救助ノ委囑ヲ受ケタル團體其他ノ施設者ハ適宜帳簿ヲ作り救助ニ關スル現金及現品等ノ出納ヲ明確ニ記載スヘシ
- 第十條 給與ヲ廢止シ又ハ給與額ヲ減スヘキ事由ヲ生シタル時ハ市町村長又ハ救助ノ委囑ヲ受ケタル團體其他ノ施設者ヨリ直ニ知事ニ上申スヘシ
- 第十一條 救助ニ關シテハ日割計算ノ方法ヲ用キス

別紙

願書書式

(生業扶助、現金給與、現品給與、施療) 願

住所 身分職業

氏名

右之者今般(豫後備又ハ補充兵)トシテ召集相成(又ハ現役延期ト相成)候處之レカ爲メ一家忽チ困難ニ陥リ糊口ニ差支候間御救助ナシ被下度此段相願候也

年月日

右戸主(又ハ家族)

氏名印

知事宛

●三十七八年戦役ニ従事シタル海軍下  
 士卒ニシテ傷痍疾病ノ爲メ歸郷後三  
 年以内ニ死没シタル者ノ遺族ヘ一時  
 賜金下賜ニ付届出方

(明治三十八年五月七日 訓令第十一號)

市役所 町村役場

今回ノ戦役ニ従事シタル海軍下士卒ニシテ傷痍疾病ノ爲メ免官免役トナリ歸郷後其負傷  
 又ハ疾病ニ原因シ三年以内ニ死没シタル者ノ遺族ヘ特別賜金御下賜可相成候ニ就テハ爾  
 今之ニ該當スル者アルトキハ其遺族ヲシテ死亡診斷書及戸籍謄本ヲ提出セシメ市町村長  
 ハ直ニ所管鎮守府兵事官ニ届出ヘシ  
 追テ海軍ノ雇員傭人モ本文ニ準シ届出ヘシ

第六款 兵 籍

●憲兵卒服務中養子分家又ハ他家相續  
 人タラントスル者取扱方

(明治十五年三月一日 乙第三十五號)

各郡 町村

憲兵卒服務中養子分家又ハ他家相續人タラント欲スル者ハ一般ノ下士ニ準シ可取扱旨其  
 筋ヨリ達有之候條爲心得此段相達候事

### ●國民兵人員表差出方

(明治十七年二月二十八日 乙第三十四號)

各郡町村

明治十六年、第四十六號、布告、徵兵令、第五條、國民兵役ニ當ルヘキ人員平素調査スルハ有事ニ際シ緊要ノ件ニ付毎年六月一日調ヲ以テ別表書式ニ倣ヒ戸長役場ヨリ同月十五日迄ニ郡役所へ差出同所ニ於テハ同月三十日限り當廳へ可届出此旨相達候事

#### 何郡國民兵人員表

明治何年六月調

何町	町村名	年別	
		十	四
三〇一	才七	十	四
二八〇	才八	十	四
三〇〇	才九	十	四
一二三	才十	十	四
九〇	才十一	十	四
八二	才十二	十	四
九一	才十三	十	四
一〇一	才十四	十	四
一〇〇	才十五	十	四
〇〇	才十六	十	四
〇〇	才十七	十	四
〇〇	才十八	十	四
〇〇	才十九	十	四
〇〇	才二十	十	四
〇〇	才二十一	十	四
〇〇	才二十二	十	四
〇〇	才二十三	十	四
〇〇	才二十四	十	四
〇〇	才二十五	十	四
〇〇	才二十六	十	四
〇〇	才二十七	十	四
〇〇	才二十八	十	四
〇〇	才二十九	十	四
〇〇	才三十	十	四
二、〇〇七	合計		

備考	合計	以下是ニ準ス	何村	何町
本表總人員ノ内				
常備現役者				
豫備兵役者				
後備兵役者				
二百一十一人				
三百四十一人				
千百五十八人				
	三、〇七五			

前書之通相違無之候也

年號 月 日

縣令 宛

何郡長

何

某印

製表説明

一年齡区分ハ其年一月ヲ以テ滿十七歳トナル者ヨリ十二月迄ニ四十歳十一月ニ至ル者ヲ調査スヘシ

一常備豫備後備兵役ノ区分ハ其年四月該役ニ編入スル者ヲ以テ算スヘシ但常備ハ陸海軍將校以下現役中ノ者及ヒ輜重輸卒等ヲ云フ豫備後備ハ現役ヲ卒タル者ヲ云フナリ

一本表ハ美濃紙ヲ以テ一郡毎ニ調製スヘシ

●兵籍名簿中身上異動報告方

(明治二十一年五月七日 達甲第十四號)

郡役所 戸長役場

兵籍名簿中(國民兵ヲ除ク)ノモノ身上異動ノ義當廳ニ於テ本人ノ届書ヲ要セサルニ據リ爾後左ノ通取扱フヘシ

但本文ニ矛盾スル從前ノ達等ハ廢止ス  
右相達ス

- 一郡役所ニ於テ異動届出ノ都度詳カニ名簿ヲ加除シ其筋ヘ送付ノ後其異動ヲ取纏メ左ノ書式ニ依リ三日以内ニ當廳ヘ報告スヘシ
- 一海軍兵志願者召募規則ニ依リ採用セラレタルモノハ報告ヲ要セス明治二十年(二月)縣令第三十號ニ依リ當廳ヘ届出シムヘシ

(書式)

兵籍名簿中身上異動報告

何郡何町何番戸士族  
平民

戸主(某何男)(何々)

明治何年徵 現役(補充)(第一豫備徵員) 何 某  
兵種番號 豫備(後備兵役)(何々)等級

右ハ何月何日死亡(戸主某退隱(死亡)ニ付跡相續(何々)

以下倣之

合計何人

右ハ兵籍名簿中身上異動報告致候也

年 月 日

郡 長

知 事 宛

一本書々式ハ單ニ一例ヲ掲ケタルモノナレハ實際其事柄ニ依リ詳カニ記入スヘシ

- 一 養子離別實家復籍セントキハ戸主ヨリ本人ニ對スル稱呼洩レナク記入スヘシ
- 一 家族全體ニ關スル異動ハ必ス人別表ヲ添付シ又人別表欄内ニアル家族ノ異動ハ右書式ニ準シ報告スヘシ但補充員及第一豫備徵員ノモノハ本文ノ手續ヲナスニ及ハス
- 一 寄留及ヒ結婚之義モ右書式ニ準シ報告スヘシ
- 一 所轄郡内ニ係ル異動ハ就籍ノ一方ノミ報告スヘシ
- 一 明治二十年徵兵ハ年度ノ下へ第一次或ハ第二次ト記入スヘシ
- 一 近衛兵ハ現役或ハ豫備後備ノ上ニ近衛ノ二字ヲ記入スヘシ

●豫備後備兵ヨリ市役所縣廳ヲ經由セ  
ス差出ス願届書報告方

(明治二十一年七月二日 訓令第百十六號)

豫備兵後備兵ヨリ大隊區司令官或ハ監視區長へ可差出諸願届等郡役所又ハ縣廳ヲ經由セ  
サルモノハ本年達甲第十四號第一項ニ依リ戶長ハ郡長へ郡長ハ縣廳へ報告スヘシ

●大隊區司令官へ送付スル戶籍寫ニ關  
スル件

(明治二十四年三月十二日 訓令第三十四號)

郡役所 市役所

本年陸軍省訓令甲第一號ニ依リ大隊區司令官へ送付スヘキ戶籍寫ハ其年十一月十日(豫  
備員繰上ノ)ヲ後レサル様回送シ回送後及在營中ノ身上異動ハ其都度郡市長ヨリ通報可  
者ハ其都度)

致様其筋ヨリ協議有之候條其旨心得ヘシ

但戶籍寫ニハ近衛師團等ヲ區別シ兵種番號ヲ登記スヘシ

●兵籍名簿取扱方及其様式

(明治三十一年三月十九日 訓令第二十二號)

郡役所 市役所 町村役場

兵籍名簿取扱方及其様式左ノ通改正候條速ニ調製スヘシ

一兵籍名簿ハ各郡市役所及町村役場ニ於テ左ノ様式ニ倣ヒ調製備置キ異動アル毎ニ詳カ

ニ加除訂正シ平素完全ナラシム

一兵籍上ノ異動成規ニ依リ届出ルモノハ勿論嚴重ニ遵守シ其他假令ハ現役中所屬部隊ノ  
變更及官等級ノ昇進勳章竝ニ從軍記章拜受等ノ事項ハ無洩町村長ヲ經テ郡市長へ届出  
ル様在郷下士以下ハ點呼召集等ノ際學生生徒及徴兵ハ入學入營ノ際適宜ノ方法ヲ以テ  
市町村長ハ懇篤各自ニ指示スヘシ

一郡市役所ニ備付ノ名簿ハ少クトモ年一回聯隊區司令部ノ名簿ト照合シ郡役所ニ於テハ尙町村役場備付ノ名簿ト時々對照シ矛盾セサル様注意スヘシ  
 (第一様式)  
 (美濃形半葉ノ式)

陸(海)軍現役將校同相當官 (明治何年徵兵步兵(何兵)名簿)		原籍住所番戶身分 戶主姓名 生年月日
參考事項	勳章及從軍記章 拜受年月日	位階 官等級
勤二等旭日章 明治何年 何月何日	服役期限	從三位男爵 陸軍中將
現自明治年月 役至明治年月	所屬部隊號	何郡(市)何町(村) 大字何々何番戶 當時何府(縣)何郡 (市)何町(村)大字 何々何番地寄留 華族(平民)
備後自明治年月 備自明治年月 國民自明治年月 兵至明治年月	第何師團長	戶主(某男) 何
現自明治年月 役至明治年月 豫自明治年月 後自明治年月 備自明治年月 國民自明治年月 兵至明治年月	第何番	明治何年 何月何日生
從軍記章 明治何年 何月何日	徵兵ニテ 徵集セラ レタルモ ノハ必ス 抽籤番號 ヲ掲ク 二等卒	
	步兵第何聯 隊何中隊	
	何郡(市)何町(村) 大字何々何番戶 士族(平民)	
	戶主(某男) 何	
	明治何年 何月何日生	

現自明治年月 役至明治年月 豫自明治年月 後自明治年月 備自明治年月 國民自明治年月 兵至明治年月	從軍記章 明治何年 何月何日	原籍住所番戶身分 戶主姓名 生年月日
現自明治年月 役至明治年月 豫自明治年月 後自明治年月 備自明治年月 國民自明治年月 兵至明治年月	服役期限	位階 官等級
現自明治年月 役至明治年月 豫自明治年月 後自明治年月 備自明治年月 國民自明治年月 兵至明治年月	所屬部隊號	從三位男爵 陸軍中將
現自明治年月 役至明治年月 豫自明治年月 後自明治年月 備自明治年月 國民自明治年月 兵至明治年月	第何師團長	何郡(市)何町(村) 大字何々何番戶 當時何府(縣)何郡 (市)何町(村)大字 何々何番地寄留 華族(平民)
現自明治年月 役至明治年月 豫自明治年月 後自明治年月 備自明治年月 國民自明治年月 兵至明治年月	第何番	戶主(某男) 何
從軍記章 明治何年 何月何日	徵兵ニテ 徵集セラ レタルモ ノハ必ス 抽籤番號 ヲ掲ク 二等卒	
	步兵第何聯 隊何中隊	
	何郡(市)何町(村) 大字何々何番戶 士族(平民)	
	戶主(某男) 何	
	明治何年 何月何日生	



備考

一本様式ハ兵籍ニアルモノ、名簿トシ將校下士及同相當官ハ任官ノトキ、徴兵ニテ徴集サレタルモノハ現役ニ編入ノ營セシトキ、海軍徴募規則ニ依リ徴募サレタルモノハ入團ノトキ之ヲ登録シ國民兵役ヲ終リタルヲ以テ終結トス

二陸海軍將校及同相當官、陸軍下士及同相當官ノ名簿ハ陸海軍將校ヲ分チ尙ホ現役將校、下士、豫備役又ハ後備役將校、下士ヲ各別ニ調製スルモノトス

但學生生徒ニシテ卒業ノ上任官スルモノハ参考乘項ノ區畫ニ其生年月日詳記ヲ要ス

三徴兵ニテ徴集サレタルモノハ年次毎ニ兵種ヲ區分シテ調製編綴スルヲ例トス

但第一第二補充兵ノ名簿モ本様式ニ倣ヒ調製スルモノトス

四徴兵ニシテ下士ニ進級セシモノハ参考事項ノ區畫ニ記シテ該名簿ヲ除名シテ相當名簿ニ轉記スルモノトス

五海軍徴募規則ニ依リ徴集サレタルモノ、名簿モ本様式ニ依リ下士、兵卒ヲ區分シテ

調製編綴シテ入團ノ年月日所管鎮守府等ハ参考事項ノ區畫ニ掲クル者トス

六用紙ハ美濃紙厚口ヲ用ヒ式ノ如ク全紙ニ六名ヲ登記スル區畫ヲ設クル者トス

七名簿ハ種類毎ニ厚表紙ヲ附シ假令ハ陸軍現役將校及同相當官名簿或ハ何年徴兵何兵

(兵種ハ悉ク列記ス)名簿ト各其名稱ヲ標掲シ所有ノ官衙名ヲ記スルモノトス

八下士以上ノ名簿ハ服役期限ノ區畫ニハ豫メ記入ヲ要セス豫備又ハ後備役ニ轉入シタルトキ之ヲ算シテ記入スルモノトス

九徴兵ニテ徴集アレ現役ニ編入シタルモノハ服役年限ヲ算シテ必ス之ヲ記入シ置クモノトス

十参考事項、勳章及從軍記章拜受、所屬部隊號、官等等級ノ各欄ハ區畫ノ右傍ニ細字ヲ以テ順次記スルヲ例トス

十一再役セシモノ又ハ轉記セシモノハ参考事項ノ區畫ニ掲ク該區畫ハ百般詳記ヲ例ト

スルヲ以テ最モ細字明瞭ニ記載ヲ要ス  
第二様式 用紙美濃形紙

(幾部分ノ式)

何々生徒名簿		何々		何々		何々		何々	
参考事項	住	所	身	分	生年月日	種	別	戸主名	姓名
何年何月何日 入校 (入團)	何郡(市) 何町(村)	大字 何々	士族(平民)	明治何年何 月何日生	陸軍教導團歩 兵科(騎兵科)	戸主(某男)	何	某	

備考

- 一本様式ハ陸海軍學生生徒ノ名簿トシ種類ヲ區分シテ調製シ編綴スルモノトス但厚表紙ヲ付シ名稱ヲ記スル等ハ前項ニ同シ
- 二卒業上任官ノモノハ参考事項ノ區畫ニ其年月日ヲ記シテ除名シ相當名簿ニ轉スルモノトス
- 三第二國民兵名簿モ本様式ニ準シ調製スルモノトス

第七款 兵事雜件

(參照)

- 陸軍服役條例 (明治二十九年六月 勅令第二百三十八號)
- 海軍下士卒服役條例 (明治三十一年六月 勅令第二百二十四號)
- 國民兵役ニ在リテ召集セラレタル者及國民軍編入志願者ニ關スル件 憲兵條例 (明治三十七年十二月 勅令第二百三十三號)
- 憲兵條例 (明治三十一年十一月 勅令第三百三十七號)
- 陸軍旅費規則 (明治三十二年六月 陸軍省令第十六號)
- 陸軍管區表 (明治四十年九月 軍令陸第三號)
- 陸軍現役軍人婚姻條例 (明治三十七年二月 勅令第四十五號)
- 陸軍現役軍人婚姻出願及許可手續 (明治三十七年二月 陸達第三十六號)
- 海軍現役軍人結婚條例 (明治四十一年七月 勅令第八十號)
- 海軍現役軍人結婚條例施行細則 (明治四十一年七月 海軍省令第六號)

- 陸軍軍人休暇規則 (明治四十一年十二月 軍令陸第二一號)
- 陸軍下士卒ノ休暇ニ關スル件 (明治三十四年八月 陸軍省令第十二號)
- 陸軍現役歩兵科ノ歸休ニ關スル件 (明治四十年十月 勅令第三百三十二號)
- 陸軍埋葬規則 (明治三十年八月 陸軍省令第二十二號)
- 海軍下士卒旅行證票規則 (明治三十二年五月 海軍省令第十二號)
- 海軍生徒下士卒死亡者取扱規則 (明治三十二年一月 海軍省令第一號)

### ●軍人軍屬處刑濟歸隊ノ者旅次証書ノ件

(明治十四年十二月五日 乙第五百五十六號)

各郡町村

本年陸軍省達甲第十六號ヲ以軍人軍屬處刑濟歸隊ノ者旅次証書改正之義別紙之通達相成候條病氣其他ノ事故等ニテ旅費繰換申立候トモ一切繰換不致若シ萬不得止場合ニ於テハ旅次証書取調事實相違無之者ニ限リ一般旅人同様取扱宿村繼ヲ以本隊へ遞送可取計尤該費用ハ本人自辨ニ屬シ候間償却方該戸長ヨリ直ニ所管營所へ申出ツヘシ此段相違候事但從前ノ達指令等本文ニ抵觸スル廉ハ自然消滅候義ト心得ヘシ

(別紙)

達甲第十六號

府 縣

明治九年達第六十七號達書自今相廢軍人軍屬處刑濟歸隊ノ者旅次証書別紙之通改正候

條此旨相達候事

明治十四年七月二十三日

陸軍卿 大山 巖

(別紙雛形)

近衛 何聯隊何大隊何中隊  
鎮臺

下士 兵卒 姓 名

右ノ者今般處刑濟歸隊申付某地ヨリ某鎮臺迄何十里一日十里詰旅費日當金四十錢合金何圓何十錢相渡候條本日當地出立順路ヲ經歸隊ノ上ハ早々隊長へ此證書ヲ差出スヘシ若シ途中ニ於テ病氣事故ニヨリ無據滯留シ旅費不足ニ及フモ一切追給セサルニ付此旨可相心得者也

● 歸休兵豫後備兵ノ犯罪處分ヲ受ケ又  
勳章褫奪ノ時通報方

(明治十九年五月十五日 乙第八十七號)

各郡町村

歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者罪ヲ犯シ地方裁判所ノ處分ヲ受ケタルトキハ其罪名ヲ記シ其帶勳者ニシテ勳章ヲ褫奪セラレタルトキハ其旨ヲ記シ犯人本籍地ノ戸長ヨリ郡區駐在官へ通報セシム可キ旨達有之候條此旨相達候事

但明治十七年七月本縣乙第百二十一號達ノ通當廳へモ可届出事

● 歸休兵豫後備兵賭博犯ノ處分ヲ受ケ

タル時通報方

(明治十九年五月二十七日 乙第九十五號)

各郡町村 各警察署 分署

歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者郷里ニ於テ賭博ノ罪ヲ犯シ處分ヲ受ケタルトキハ自今警察官ヨリ犯人本籍地ノ戸長ニ通報シ戸長ヨリ郡區駐在官ニ通報セシム可キ旨達有之候條此旨相達候事

但戸長ニ於テハ明治十七年本縣乙第七十三號達ノ通當廳ヘモ別途可届出儀ト可心得

● 歸休兵豫後備兵陸軍刑法ノ罪ヲ犯シ

タル時告發方

(明治十九年五月二十九日 乙第九十六號)

各郡町村

歸休兵及豫備後備兵召集或ハ徵兵入營之節正當ノ事故ナク期日ニ後レ陸軍刑法百七條ノ罪ヲ犯シタルトキハ本人ノ復歸ヲ待タス普通治罪法第九十六條ニ據リ檢事若クハ司法警察官ヘ告發シ歸休兵及豫備後備ニ係ル者ハ其旨郡駐在官ヘ通報シ猶當廳ヘハ總テ届出スヘシ此旨相達候事

但明治十六年當廳丙第七十三號達ハ自今廢止トス

### ●陸軍下士兵卒ノ歸省ヲ願フ者取扱方

(明治二十三年七月八日 訓令第三百三十一號)

郡役所 市役所 町村役場

這般陸軍々人休暇規則改正ニ付陸軍下士卒父母ノ病氣若シクハ死亡等ノ爲メ休暇ヲ得歸省ヲ願フ者取扱方左ノ通心得ヘシ

但明治二十二年(六月)當縣訓令第四百四十四號ハ廢止ス

第一項 下士以下ハ父母病氣又ハ死亡等ニテ歸郷ヲ要スル時親族ノ出願ニ依リ之ヲ許可ス其日數往復ヲ除キ二週日以内トス

第二項 下士以下父母病氣又ハ死亡等ノ爲メ本人ノ歸郷ヲ願フ時ハ親族ニ於テ願書ヲ作リ(病氣ナレハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ)市町村長ノ與書證印ヲ受ケ本人所屬ノ軍隊又ハ官衙ニ差出シ之ヲ許可シタル時ハ其指令ヲ本人へ下付ス

第三項 下士以下休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行ノ者如何ナル事項ニ遭遇スルモ休暇日數ヲ延ルコトヲ得ス然レトモ本人病氣ニテ出發シ難キ時ハ最初出願ノ手續ニ依リ更ニ出願シテ命ヲ待ツヘシ途中發病又ハ船待川留雪支等ニテ不得止休暇日數ヲ超過スル場合ニ在テハ地方醫師ノ診斷書或ハ市町村長ノ證明書ヲ請ヒ歸著ノ上差出スヘシ

### ●新兵家族ノ傷痍疾病ニ依リ現役免除願ニ添フ病況書調製方

(明治二十三年十月六日 訓令第三百六十號)

郡役所 市役所 町村役場

新兵家族ノ傷痍疾病ニ依リ現役免除願若クハ在郷兵永久服役ニ難堪届書ニ添フ醫師ノ病況書ハ從來粗漏ニシテ師團軍醫長ニ於テ判定難致爲メニ往復ノ手數ヲ要スルノミナラス本人等ニ在テモ自然不幸ヲ來ス事情有之ニ付自今左ノ病況書ニ準シ調製添付可差出様第

五師團長ヨリ照會有之候條其旨相心得粗漏ノ病況書ヲ添ヘサル様取斗フヘシ

病況書

何縣何國何郡市何町村

何々氏名

稟賦强健骨テ重病ニ罹リシコトナシ唯何年頃ヨリ春秋ノ際屢々諸關節ニ疼痛腫起ヲ發スルコトアリシモ毎二三週日ニシテ消散セリト然ルニ何年何月何日何地旅行ノ際驟雨ニ遇ヒ全身大ニ冷濕ヲ被リ同月何日ニ至リ全身違和四肢倦怠頭痛ヲ覺ヘ次テ惡寒戰慄ヲ發セリ同日午後之ヲ診スルニ體温三十九度脈搏百至、舌上白苔ヲ被リ煩渴消スヘカラス諸關節殊ニ右膝關節ノ腫起疼痛最モ甚シク爲メニ起立歩行スル能ハス尿ハ暗赤色ニシテ靜定スレハ瓦紅色ノ沉渣ヲ生シ大便ハ秘結セリ依テ關節急性複發癱瘓質斯ト診定シ直ニ撒里矢爾酸那篤留母何瓦蘭謨ヲ内服セシメ安靜温保ヲ命セシニ一週日ヲ經テ諸關節ノ腫痛ハ大ニ緩解セシモ特リ膝關節ハ諸症依然トシテ退カス體温猶二十八度五六ノ間ニ留マルヲ

以テ患部ニ氷奄法及石炭水奄法ヲ行ヒ撒里矢爾酸那篤留母何瓦蘭謨ヲ一日間ニ分服セシメ之ヲ持長スルコト二週日ニシ炎症大ニ消退シ體温何度ニ降ル然ルニ何月何日上圖ノ際誤テ躓付シ右膝ヲ打撞シ爲メニ同關節ノ炎症再ヒ増劇シ體温四十度脈搏百至至患部ノ腫痛甚シク夜間呻吟眠ヲ得ス依テ解熱消炎ノ方ヲ處セシカ何月何日ニ至リ患部ニ波動ヲ觸知ス因テ探膿針ニテ一分ノ液ヲ採リテ檢スルニ果シテ膿汁ナリ故ニ關節急性化膿炎ニ轉シタルモノト診定シ防腐法ヲ嚴守シ切開シテ膿ヲ泄シ石炭酸水ニテ洗滌シ排膿管ヲ挿入シテ防腐綑帶ヲ施シ兼テ持續展神法ヲ行ヒシカ爾後疼痛漸ク去リ體温亦下降シ食機再ヒ振フト雖モ尙ホ膝關節ノ強剛ヲ遺スヲ以テ按摩法及他動的運動ヲ試行セシカ遽ニ輕度ノ彎曲ヲ遺シ且削瘦シ爲メニ歩行スルコト能ハス依テ該彎曲ハ全ク治癒ニ至ラサル者急速治癒スルニ至ラサルモ猶何々ノ療法ヲ施セハ或ハ治癒ニ至ルヘクト診定候也

何府縣何國何郡何町村何番地

主治醫氏名印

何年何月何日

(相談醫アルトキハ  
同)  
相談醫 氏 名 印自

◎士官候補生(幼年學校生徒)志願者身  
上證明書式及取調方

(明治二十四年十一月六日 訓令第百十二號)

郡役所 市役所 町村役場

陸軍各兵科現役士官候補生志願者並ニ陸軍幼年學校生徒志願者身分財產等ノ證明書式及  
取調方左ノ通相定ム

但明治二十年八月愛媛縣達甲第九十四號ハ廢止ス

(書式) 用紙美濃形白紙

士官候補生(幼年學校生徒)志願者身上明細表

身	父某 存(亡) 道廳府(縣)何族(平民)(何省(府)(縣)何官(何會社何々)等陸軍 父戶主ニアラサルトキ 戶主某(母)(兄)等 本人	分	同右 同右 同右
財	父ノ所得金 俸給、手當金、年金、恩給金、割賦賞與金等幾圓 公債證書、株券、貸金、預金等ノ利子、配當金幾圓 資金ヨリ生スル純益金幾圓 營業其他ヨリ生スル純益金幾圓 所得金ナキ動産不動産ノ所有高	所得金合計幾圓 所得金ナキ動産 不動産合計	
産	戶主ノ所得金 本人ノ所得金	同右 同右	



<p>本人教育 尋常中學(高等小學)ヲ卒業シ現時何々修業(尋常中學第幾年生) (尋常中學ニ入ラス何々修學)等</p>	<p>本人性質 温良(敏捷)等 強健(稍健)等</p>	<p>品行 父身代限、輕罪以上、賭博犯ノ處分ヲ受タル有(無)平素品行方正(稍正)等 戸主 同 右 本人 同 右</p>	<p>前書之通相違無之證明候也 年號月日 郡市長 姓 名 印</p>
--------------------------------------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------

一身分財産ハ本人若クハ親族等ノ届書ニ依リ町村長之ヲ調査シ相違ナキヲ證明シ郡長ニ差出シ(市ニ在テハ市長之ヲ調査ス)郡市長ニ於テハ該書類ヲ以テ又教育品行ハ本人若クハ親族等ヨリ差出ス所ノ教師、裁判所、警察署ノ證明書ニ依リ性質體格ハ自ラ調査シ本文ノ身上明細表ヲ調製シ該證明書類ヲ添へ進達スヘシ但郡市長ニ於テ本人若クハ親族等ヨリ身分財産ノ届書竝ニ教育品行等ノ證明書ヲ差出シ能ハサルトキハ便宜ニ據リ身分、財産、性質、體格等ヲ調査シ教育ハ教師ニ品行ハ裁判所若クハ警察署ニ要求シ又寄留者ニ在テハ本籍地ノ郡市區長ニ照會シ本表ヲ調製スヘシ陸軍下士生徒及兵卒ヨリスル士官候補生志願者ニ係ル身分財産等ノ證明則チ身上明細表調製モ亦同シ

●豫後備ノ下士卒及一年志願兵ニシテ  
現役士官候補生志願ノ者取扱方

(明治二十四年十二月十九日 訓令第二百二十六號)

郡役所 市役所 町村役場

豫備後備ノ下士卒及現役ヲ終リタル一年志願兵ニシテ現役士官候補生志願者有之候トキハ華士族平民ノ例ニ據リ取扱フヘシ

●尙武義會準則

(明治二十六年三月十九日 訓令第二十六號)

郡役所 市役所 町村役場

陸海軍人優待獎勵ノ爲今般左ノ通尙武義會ト稱シ其準則設定候條自今右準則ニ依リ獎勵候様取計フヘシ

尙武義會準則

第一條 本會ハ陸海軍人ヲ優待獎勵スルヲ以テ目的トス

第二條 本會ノ區域ハ郡市役所々轄内トシ毎町村ニ支部ヲ置ク

第三條 本會ニ左ノ役員ヲ置キ其任期ハ總テ滿三年トス(支部長ヲ除ク)但滿期者ヲ再選スルヲ得

一 會長 一名

一 副會長 一名

一 支部長 一町村ニ一名 市ニ在テハ之ヲ置カス

一 理事 二名以上七名以下

一 委員 郡ニ在テハ一町村ニ三名以上十名以下  
市ニ在テハ十名以上三十名以下

第四條 本會ノ事務所ハ郡市役所々在地ニ支部ハ町村役場所在地ニ置キ其名稱ハ左ノ如シ

一 某郡市尙武義會事務所

一 某郡尙武義會某同村支部

第五條 會長ハ本會ノ事務ヲ總理シ總集會委員會及常議員會ノ會長トナル

第六條 副會長ハ會長ヲ補佐シ本會ノ庶務ヲ處理シ又會長不在ノ節ハ其代理ヲ爲ス

第七條 支部長ハ部内ノ事務ヲ總括シ委員ハ支部長ヲ補佐シ其事務ヲ斡旋スルモノトス

第八條 理事ハ會長及副會長ノ指揮ヲ受ケ庶務、會計、記録ノ事務ヲ掌リ總集會若クハ

委員會ニ於テ諸報告ヲ爲シ議事ノ説明ヲ爲スモノトス

第九條 會長副會長ハ委員會ニ於テ會員中ヨリ之レヲ選舉シ理事ハ會長之レヲ囑托ス

支部長ハ會長ニ於テ當分町村長ニ囑托ス

委員ハ市町村内會員ノ公選ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 本會ノ事務ヲ議スル爲メ總集會委員會常議會ヲ開ク

第十一條 總集會ハ臨時之レヲ開キ委員會ハ一年一回若クハ二回トス常議會ハ時々之ヲ

開ク

但委員會ハ本條ノ外臨時之ヲ開クコトアルヘシ

第十二條 委員會ヘ出席スル委員ハ一町村ニ二名以下トシ其町村内委員中ヨリ互選スル

モノトス

第十三條 常議會ハ會長副會長及理事ヲ以テ組織ス

第十四條 總テ議事ハ出席會員ノ過半数ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ意見

ニ依ル

第十五條 會長副會長及理事ハ總集會並委員會ニ於テハ各其意見ヲ述フルヲ得ヘント雖

モ可否ノ數ニ算入スルヲ得ス

第十六條 總集會ハ從來執行セシ事務ノ景況並ニ會計ノ報告ヲ爲シ將來ノ進歩ヲ謀ルモ

ノトス

第十七條 委員會ハ前年度ノ決算報告ヲ受ケ本年度内ニ要スル費用ノ收支ニ關スル事項

ヲ議定スルモノトス

第十八條 常議會ハ本會實施ノ方法及贈與スヘキモノ、住所氏名其他必要ナル事項金員等ヲ調査シ委員會ニ提出スルモノトス

第十九條 本會ニ要スル諸費ハ會員ノ義捐金ヲ以テ之ニ充ツ

第二十條 本會ニ收入スル金員若クハ物品ハ總テ會長ニ於テ之ヲ受ケ其帳簿へ登録シ現金ハ貯金局又ハ相當資産アル者へ預ケ入レ利子ノ増殖ヲ計ルモノトス

但資産アル者へ預ケ置クトキハ相當ノ抵當ヲ取り置クモノトス

第二十一條 本會ノ會員ハ左ノ二種トス

但重罪ノ刑ニ處セラレタルモノハ會員タルヲ得ス

一名譽會員 本會ニ功勞アルモノ

二通常會員 一ケ年金十錢以上ヲ義捐スルモノ

第二十二條 本會ノ趣旨ヲ協賛シ金員若クハ物品ヲ一時寄贈スルモノハ賛助員トシ永ク

其氏名ヲ登録シ置クモノトス

第二十三條 本會ニ於テ贈與ス可キ金額ハ左ノ事項ヲ審査シ概金一圓以上二十圓以下トス

但刑法ニ據リ處分ヲ受ケタルモノハ贈與セス

一 徵兵ニシテ現役中勳位ニ叙セラレ歸郷セシモノ

二 徵兵ニシテ下士ニ昇進シ士官適任證書ヲ有シ歸郷セシモノ

三 徵兵ニシテ下士ニ昇進シ善行證書ヲ有シ歸郷セシモノ

四 徵兵ニシテ下士ニ昇進シ現役ヲ畢へ歸郷セシモノ

五 徵兵ニシテ上等兵トナリ下士適任證書竝ニ善行證書ヲ有シ歸郷セシモノ

六 徵兵ニシテ上等兵トナリ下士適任證書ノミヲ有シ歸郷セシモノ

七 徵兵ニシテ上等兵トナリ善行證書ヲ有シ歸郷セシモノ

八 徵兵ニシテ上等兵トナリ歸郷セシモノ

九 徴兵ニシテ一等卒トナリ褒賞歸休ヲ命セラレ善行證書ヲ有シ歸郷セシモノ  
十 徴兵ニシテ一等卒トナリ善行證書ヲ有シ歸郷セシモノ  
十一 徴兵ニシテ一等卒トナリ歸郷セシモノ  
十二 徴兵ニシテ二等卒トナリ歸郷セシモノ  
十三 徴兵輻重輸卒ニシテ組長トナリ歸郷セシモノ  
十四 徴兵輻重輸卒ニシテ組長適任證書ヲ有シ歸郷セシモノ  
十五 徴兵輻重輸卒ニシテ現役ヲ畢ヘ歸郷セシモノ  
十六 公務ノ爲メ傷痍疾病ニ依リ現役ヲ免セラレ歸郷セシ下士ハ第三項兵卒ハ第五項ニ準ス  
十七 現役中傷痍疾病ニ依リ現役ヲ免セラレ歸郷セシ下士ハ第四項兵卒ハ第十一項ニ準ス

第二十四條 前各項ニ該當スル再役者ハ三分ノ一乃至五分ノ一ノ金額ヲ増加ス

第二十五條 陸軍教導團出身ノ下士滿期歸郷ノ節ハ第二十三條ニ準シ金員若クハ物品ヲ贈與スルモノトス

第二十六條 現役中懲罰ノ處分ヲ受ケタルモノハ左ノ割合ニ依リ贈與金ヲ減ス

一 懲罰五日以上ノ輕營倉ハ 十分ノ一以上

二 懲罰五日以上ノ重營倉ハ 十分ノ三以上

第二十七條 戦死者又ハ公務ノ爲傷痍疾病ニ依リ死亡セシモノハ吊慰料トシテ第二十三條ニ依リ其遺族ニ贈與ス

第二十八條 本則第二十三條ノ外支出ヲ要スル費用ハ委員會ノ決議ニ依リ支辨スルヲ得

第二十九條 本會事務所ニ左ノ帳簿ヲ備ヘ置クヘシ

一 役員及會員名簿(族籍身分位動住所氏名)

二 義捐金收集簿

三 諸費支出簿

四贈與セシ下士兵員名簿

五賛助員名簿

六戦死者名簿

第三十條 本會金錢ノ出納ハ勉メテ明瞭ニシテ錯雜セシメサルハ勿論會員ヨリ帳簿ノ閱覽ヲ請フモノアルトキハ速ニ之ヲ示スヘシ

第三十一條 本會ノ規則及ヒ其變更ハ委員會ニ於テ規定シ本縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

●豫後備在籍ノ下士卒身上異動届差出方

(明治二十六年九月二十八日 訓令第六十七號)

郡役所 町村役場

豫備後備在籍ノ下士卒身上異動届等町村長ヲ經テ直ニ監視區長ヘ差出スヘキ書面ハ事務整理ノ必要有之候條自今ハ總テ郡役所ヲ經由セシム可シ

●海軍下士卒服役中處罰セラレタルト  
キ通報方

(明治三十年三月十九日 訓令第二十九號)

郡役所 市役所 町村役場

今般海軍省令第三號ヲ以テ海軍下士卒現役中刑罰ニ處セラレタルトキ海兵團ヨリ本人在籍ノ地方廳ニ通知シ地方廳ハ順序ヲ經テ之ヲ本人ノ父兄等ニ通達スルノ規定ヲ設ケラレタル主旨ハ服役中ナル下士卒ノ品行等ニ關シテハ從來其父兄等ニ對シ官廳ヨリ之ヲ通報セシムルノ制ナカリシ爲メ或ハ毀損セル官物ノ代價ヲ償フト稱シ或ハ之ヲ辨償セサレハ刑罰ニ處セラルヘシト唱ヘ其他種々無根ノ口實ヲ設ケテ其父兄ヲ欺キ金員ノ送付ヲ請フ等不良ノ所業ヲナス者往々有之哉ニ付其惡弊延テ一般ノ風紀ヲ壞亂シ云フヘカラサルノ結果ヲ考慮セラレ現役中刑罰ニ處セラレタル者アルトキハ其父兄等ヲシテ之ヲ覺知セシ

メ一ニハ斯ノ如キ不良ノ所業ヲ絶タシメ一ニハ其子弟ヲ戒飾シ奉公ノ志ヲ堅カラシメト  
スルノ企望ニ基カレタル儀ニ付其旨心得フヘシ

●現役砲兵輸卒及現役輜重輸卒ニシテ疾  
病犯罪等ニテ入營シ難キ者取扱方

(明治三十年五月二日 訓令第四十一號)

郡役所 市役所 町村役場

現役砲兵輸卒及現役輜重輸卒ニシテ疾病犯罪等ノ爲メ入營シ難キ者ノ取扱方ハ客月一日  
官報登載陸軍省訓令甲第四號ノ通り心得ヘシ

●第五師團長ニ於テ規定ノ事項ハ其儘

第十一師團ニ襲用ノ件

(明治三十二年一月七日 訓令第一號)

郡役所 市役所 町村役場

諸條例規則ニ基キ第五師團長ニ於テ規定シタル事項ハ當分其儘第十一師團ニ襲用スヘキ  
通知有之候條其旨心得ヘシ

●兵事官へ差出ス書類ノ宛名ニ關スル件

(明治三十三年七月二十九日 訓令第七十號)

郡役所 市役所 町村役場

海軍諸例規等ニ依リ兵事官へ差出ス書類ニシテ特ニ某兵事官ト指定スルノ必要ナキモノ  
、宛名ハ爾後某鎮守府兵事官御中ト記載スヘシ

### ●海軍軍人結婚願出手續

(明治三十三年二月十七日 訓令第十三號)

郡役所 市役所 町村役場

海軍軍人結婚願出手續第一條ニ左ノ但書ヲ加ヘ書式身元證明書ヲ左ノ如ク改正セラレ候  
條身元證書ヲ要スル場合ハ該式ニ依リ調製シ與フヘシ  
但配偶者タルヘキ婦人ノ婦人ノ年齢ヲ證明スル爲メ戸籍吏ノ爲シタル戸籍抄本ヲ添付  
スヘシ

(身元證明書左ノ如ク改正セララル)

#### ●海軍現役軍人結婚條例施行細則 (抄)

(明治四十一年七月二十四日 海軍省令第六號)

#### 第二號書式

#### 身分證明書

府(縣)市區(郡)町(村)(字)番地  
族籍職業氏名何女(姉妹等)

名

右品行端正ノ者ナルコトヲ證明ス

明治 年 月 日

府(縣)市區(郡)町(村)長 氏 名 印



●海軍下士兵卒ニシテ免官免役後原籍  
變更改姓名死亡等ノ節報告方

(明治三十八年十二月六日 訓令第三十三號)

郡役所 市役所 町村役場

海軍下士兵卒ニシテ明治三十七年二月六日以降免官免役トナリ其後原籍變更改姓名死亡  
又ハ處刑ノ者アルトキハ免官免役ノ際ニ於ケル本人在籍ノ鎮守府ヲ明記シ速ニ當廳ヘ報  
告スヘシ

但町村長ニアツテハ所轄郡長ヲ經由スヘシ

●陸軍豫備後備補充兵役ニ在ル者ニシ  
テ郡市町村ノ吏員並召集事務ヲ主管  
スル郡市町村書記タル者調査報告方

(明治四十一年四月二十一日 訓令第十六號)

郡役所 市役所 町村役場

陸軍豫備役後備役補充兵役ニ在ル者ニシテ郡市町村長市町村助役同收入役ハ國會議  
員並召集事務ヲ主管スル郡市町村書記タル者ハ其ノ官職氏名等ヲ左記様式ニ依リ調査シ  
町村長ハ毎年九月十日迄ニ部長ニ郡市長ハ同月十五日迄ニ當廳ニ報告シ爾後翌年ノ報告  
期迄ニ新任轉免ノ異動アルトキハ其ノ都度報告スヘシ  
明治三十三年香川縣訓令第六十三號ハ之ヲ廢止ス

明治四十一年香川縣訓令第十六號ニ依ル人名調査

現官(職)名	兵役	官名(兵種等級)	徵收年	本籍	氏名
何	豫備	步兵伍長 (騎兵)等卒)	何年	何縣何郡何村 何番地	何某

264  
208

終

